

平成26年度
自己点検・評価報告書

目 白 大 学

大 学 院

(1) 特筆すべき事項

<教育活動・学生指導>

- 平成26年度FD活動目標として「研究科全体による論文指導体制の強化」を掲げ、年間を通じて研究科を挙げて論文指導のあり方を検討した。
- FD活動の一環として、修士論文中間発表・最終試験に学生全員の出席を義務づけ、教員も全員出席を原則として実施した結果、1年生の出席がやや少なかったものの、教員はほぼ全員が出席して活発な質疑応答と意見交換をおこなった。
- 修士論文指導に全教員を充てる体制により、教員一人当たりの担当学生数を少なくし、いわゆるゼミを中心とするきめ細かな個別指導及びフォローアップを徹底したことが奏功して、修士論文不合格者（未提出者を含む）が43%（25年度）から14%（26年度）に改善された。
- 社会のグローバル化や少子高齢化が加速し、また産学連携や生涯学習等が注目される中、多様な層の学生の確保をめざし、また論文指導の現状も踏まえて、研究科の将来構想について検討し、カリキュラムの改訂と修了要件の見直しをおこなうことを確認した。
- 地域社会学科主催のシンポジウム「地域フォーラム」に共催・協力し、研究科の学生にも出席を促した。

<組織マネジメント等>

- 研究科委員会の議事録作成・確認・管理を徹底したことは、組織マネジメント・議事運営上の大きな収穫の一つであった。
- 研究科修了判定として、これまでの修士論文合否判定に加えて、修了予定者の修得単位判定を委員会事項として位置づけた。
- 平成27年度入試は入学者（合格者）19名で、定員20名のところ1名だけ充足させることができなかったが、本学卒業生（新卒及び社会人）3名のほか、留学生にも若干多様性が見られた。
- 入試広報部の支援により学生募集のための研究科紹介チラシを制作し、関係者に配布・送付し、また学内にも掲示した。
- 合格した修士論文を製本・管理するとともに、すぐれたものについては要旨を目白大学ホームページ上で公開している。
- 交代要員として非常勤講師2名（「グローバル・ビジネス研究」「考古学研究」）を新たに迎えることができた。

(2) 今後の課題

<教育活動・学生指導>

- 研究科全体による論文指導体制の強化に今後も取り組み、論文指導担当教員のきめ細かな個別指導と中間発表・最終試験における全教員による指導をさらに徹底する。
- 修士論文最終試験で2名が不合格となったが、他にも論文の質やレベルの点で必ずしも十分でなく、論文執筆のルールやマナーについても厳しく指導する必要がある。
- 大学院生の就職活動を支援するために、キャリアセンターとの連携や修了生・同窓生とのネットワークの構築を図る。
- 2020年開催の東京オリンピックも視野に入れながら、観光・文化・環境などの分野における地域連携や産学連携を通して大学院生が積極的に国際交流や社会貢献に取り組める機会を拡充する。
- 地域社会学科との共催によるシンポジウムのほか、国際交流研究科主催の公開講演会等の開催を企画・検討する。

<組織マネジメント等>

- 平成26年度策定の研究科将来構想検討案に沿って、カリキュラムの改訂と修了要件の見直しを実現する。
- カリキュラムの改訂として、グローバル人材の育成や高度職業人・教養人の育成を目的として相応しい科目の新設や国際交流研究に関する学際的オムニバス講義の新設をおこなう。
- 修了要件の見直しとして、修士論文の提出をもって修了要件とする現行のコースのほかに、課題研究報告書や臨地研究報告書の提出をもって修了要件とするコースを併設する。
- 国際交流研究科であるから留学生が多いことは良いとしても、比率が極端に高く、また出身国に偏りがあるので今後は多様な国々、非漢字文化圏の国々などからの留学生を確保する方策を検討する。
- 特に海外にネットワークをもつ企業に広報活動を拡げ、また厚生労働省教育訓練支援給付金制度も活用しながら社会人学生を確保する。
- 本学の卒業生、他大学の新卒生、リタイア世代、主婦など、異文化交流や多文化共生の問題に関心を持つ多様な層からの掘り起こしを図る。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	国際交流研究科
---------------------------	---------------	------------------	---------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平成26年7月30日に開催された「修士論文の中間発表」は出席した教員の有益なコメントやアドバイスがあり、その後の作成指導には有効であった。 ②平成26年度も1年次秋学期ゼミ履修生の決定を春学期の指導教員の面接の希望票に基づき行った。(双方ミスマッチ防止) ③留学生には日本に関する研究や日本と母国との比較研究をなるべく行うように勧めている。 ④修士論文の要旨をインターネットで公表している。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①修了生の学会や研究会での発表、紀要などへの投稿を奨励する。 特に優秀で当該分野で一般に活用に資すると思われる論文については出版を勧める。 ②学生の質(特に留学生の日本語能力と専門の基礎学力)が低下傾向にあることから入試で可能な限り質の高い学生を確保する。 ③将来的には国際交流の基礎共通科目に英語での授業を取り入れる(英語のできる学生のための特別講座)
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①授業の欠席の多い学生のフォローアップを行った。(病気や就職活動による) ②修士論文作成指導に際して指定された曜日に研究室に来訪するように義務付けた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①就職活動の助言や就職後の学生のフォローアップ体制を作る。 ②月1回のオフィスアワーを設けて学生の相談に応じる。
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平成27年1月24日に地域社会学科で開催された公開フォーラム(第7回地域フォーラム)「震災復興に向けた地域の力・文化の力」-4年目を迎える震災復興で今何が必要なのか-に共催した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①JICAや自治体などと連携し国際交流に関するシンポジウムを目白大学で開催する。(例:途上国との観光交流) ②2020年の東京五輪を迎えて国際交流のブランドや意義が高まることから、又、全国の大学で国際交流の学部や研究科がほとんど無いこともあり東京都などが主催する国際交流のイベントに目白の留学生が参加するように促す。
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平成26年7月に修士論文の中間発表、平成27年2月6日に修士論文の最終試験を実施した。 ②広報活動・学生募集強化のためにオープンキャンパスでの進学相談や研究室での相談会を実施した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国際交流に相応しい欧米やインドなど多様な国からの留学生(現在は中国が大半)と実務の特性を活かした社会人学生を確保する。日本人の学生確保には新宿キャンパスの学部生への説明会の開催、社会人は厚生労働省の「教育訓練給付制度」を活用する。 ②留学生と社会人を含めた日本人学生との学生数のバランスを考えて異文化の相互交流を図る。 ③同種の他の大学の大学院との交流を図り授業の効果を高めていく。 ④国際交流基金などから外部講師を招き年1-2回、講演やセミナー(ワークショップ)を実施し国際交流の現場に触れる。 ⑤目白大学エクステンションセンターでは社会人など多様な学生がいる(小生はスペイン語の講師)。連携・活用する。
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①目白大学の他の研究科との連携強化 (学生の自由科目選択の拡大、大学院新聞、産学連携などでの協働作業など) <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①修了生の就職などについてフォローアップをする。又、修了生の同窓会を企画し交流を通じて国際交流研究科のネットワーク作りを充実させ国際交流研究科の一層の躍進を図る。

(1) 特筆すべき事項

- ①心理学研究科現代心理学専攻および臨床心理学専攻とも、次年度（平成27年4月）入学者から、厚生労働省の教育給付訓練制度を利用できることになった。これにより、社会人受験生に対する学費軽減を27年夏発行予定の「入試要綱」で広報できるようになった。
- ②平成26年度臨床心理士資格認定試験において、平成26年3月に修了した学生24名のうち17名が合格し、現役合格率は70.8%と全国平均60.4%を上回る成績をあげた。
- ③心理学研究科においては修士論文および博士論文作成のための研究を実施する際に、学内で倫理審査を受ける研究が多いため、研究科の倫理審査委員会を中心として申請書作成のための特別セミナーを実施し、審査の効率化と同時に学生指導にも一定の成果を得た。
- ④教員の研究指導力を向上するために、FD活動のテーマとして研究倫理審査指導力を向上させることとした。1年間で両専攻合同で3回の研修機会を持った。今後は今回の実践と反省を生かし、心理学研究科独自のガイドラインの作成を目指す。

(2) 今後の課題

- ①大学院生が研究しやすい環境を整備するためにも、現在の大学の倫理審査委員会の開催日時・回数・開催場所の再検討が必要である。
- ②本学の学部からの大学進学者は、現代心理学専攻では12名中9名となり一定の成果を得た。他方、臨床心理学専攻では9名中1名であり、受験生の増員および合格者の確保についていっそうの検討を要する。
- ③学部の入試委員および教務委員が大学の入試広報部と協議し、できる限り早く大学院進学者の学内優先枠あるいは推薦入試制度を実現して、学内からの応募者と進学者を増やして、入学者を確保できるようにする。
- ④心理職国家資格の議員立法が廃案となったため、今後の法案再提出の動向と方向性を見極め修士課程の両専攻のあり方と指導体制を再検討する。
- ⑤以前より少数ながら留学生の受験生が見られ、博士号取得者も1名いる（博士課程にも現在1名在籍している）。今後はさらに多様な学生指導が求められる。そのような現状を踏まえ、学生の募集と指導に教員側の意識を変えていくことが必要である。
- ⑥博士課程在籍者へのTA職を通じた教育経験の提供
- ⑦学生募集にむけて、募集チラシ作成と大学院予備校における相談会を通じていっそうの広報活動をおこなう
- ⑧研究科全体としての地域的・社会的貢献のあり方の再検討

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	現代心理学専攻
項目	自己評価			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①この年度の修士論文の完成度が例年になく良かったとの評価が多くの教員から出た。丁寧な指導が根付いてきたように思う。</p> <p>②構想発表、中間発表、最終発表といずれも「全ての学生に対して」「教員全員の評価・指導を与える」工夫がうまく回り出した。専攻の多くの教員からの公平な指導、評価が与えられることにつながっている。</p> <p>③カリキュラムで意図した「研究能力の着実な強化」が出てきているように思う。カリキュラムの組み立てが良く仕上がってきている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①入学者数確保の為、必ずしも準備状態が十分でない学生も入学している。これらの学生に対する、3年～4年間の在学指導も選択肢として、必ず目的（論文を執筆しての修了）を達成してもらえそうな指導を目指したい。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①研究倫理審査に関わる講習会を臨床心理学専攻と共同でスタートすることが出来た。</p> <p>②久しぶりに修論を完成させないままでの退学者が出てしまった。残念ではあったが、この社会人学生は「充実した時間を過ごせたので、納得している」とのことであった。教訓としたい。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①倫理審査に関しては、次年度より教員も学生と共通の理解をしておくよう、同じ講習会に出席することにする。</p> <p>②休学をする何らかの問題を抱えた学生が、少数とはいえ必ずいるので、更に丁寧な指導を心がけたい。</p> <p>③なかなか難しいが、修了生の就職に関してもないか支援できる様な工夫を考えたい。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①専攻としては特別意識的活動はしていないが、教員個人個人は、依頼に応じてまたは主体的に様々な社会的活動（執筆、講演、行政や各種団体等の公的委員など）に従事して活躍している。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①専攻として、また研究科としての意識的な社会貢献活動が出来ると良い。研究科として、他専攻、カウンセリングセンターなどと共同で検討したい。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①各教員が役割を自覚して自発的に動き、コミュニケーションも悪くないので、スムーズに流れていると考えられる。</p> <p>②久しぶりに「定年退職者」を迎えた。やはり10年も一緒にやってきた先生なので寂しいが、変わりの先生も迎えることが出来て良かった。専攻や研究科としては、おやめになる先生をきちんと送り出すことが出来た様に思う。</p> <p>③当専攻の修了生を、少しずつ非常勤講師として迎えることが出来るようになってきた。専任教員の採用までつながると良い。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①これからだんだんと定年を迎える先生方が増えてくることで新しい専攻像を考える必要がある。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①定員確保の活動を専攻教員としてもそれなりにやったつもりであるが、定員割れが常態化してきた。近年になく入学者数が少なかったことは残念であった。（12人入学/20人定員）</p> <p>②入学者12人のうち、教員のツテによる他大学出身者と留学生1名を除くと、残りの10名全員が心理カウンセリング学科からの進学者であった。学部上がりが多いことは学部生が興味を持ってくれてうれしい反面、専攻の目指すところ（社会人、他大学出身者かく1/3）を考えると問題でもある。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①他学出身者の入学者、社会人入学者をどう増やすかが一番の課題である。</p> <p>②今のままの入学者数だと、定員の変更を検討せざるを得ない。</p> <p>③修了生が気軽に大学に戻ってきて、居場所がありなおかつ豊かな交流できる仕掛けが是非欲しいところである。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	臨床心理学専攻
項目	自己評価			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成26年度臨床心理士資格認定試験において、平成26年3月に修了した学生24名のうち17名が合格し、現役合格率は70.8%と全国平均60.4%を上回る成績であった。</p> <p>②修士論文最終試験をポスター発表形式から口頭発表形式に変更した。2会場での実施により全教員が学生全員の審査に直接関わることはできないが、各学生の研究発表を丁寧に審査することができ、次年度も同様に実施する方針となった。</p> <p>③臨床心理学専攻主催による臨床心理士試験合格体験講演会を平成27年3月18日に行い、2名の修了生が講演した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①臨床心理士資格認定試験合格率のさらなる向上を図る。</p> <p>②2年次は内部・外部実習が増えるため、報告書等の作成課題も含め、学生の負担感が増す傾向にある。学生の心身の健康にも留意し、今後の実習のあり方を再検討する。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①修士論文作成のための研究において大学の倫理審査が必要な研究について、昨年度臨床心理学専攻内で倫理審査申請書を提出する学生を対象に2回の講習会を実施したが、今年度より現代心理学専攻と合同で行うこととなった。</p> <p>②レポート、研究論文等作成に際し、不正行為防止の指導を行った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①在学中より関連学会・研究会等への積極的な参加を促す。</p> <p>②若い学生が大多数となってきていることから、とくに内部実習・外部実習の開始に際し、実習生としてまた援助職としての姿勢・マナーの指導を十分に行う。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>専攻としてではないが、個々の教員による以下の活動を行った。</p> <p>①心理、教育、福祉、医療に携わる専門家・大学院生を対象とした心理カウンセリングセンター主催の下記ワークショップが開催された。</p> <p>「発達障害を抱える子ども・保護者との関わり方ー発達障害児への支援を再考するー(丹明彦准教授)」「東洋療法的心身技法の理論と実践(奈良雅之現代心理学専攻教授)」「メンタルヘルスの基本と職場のストレスマネジメント(渡邊智之カウンセリングセンター助教)」</p> <p>②和光市・和光市教育委員会後援により、一般地域住民を対象とした心理カウンセリングセンター分室主催の公開講座を開催した(「アディクションの理解と治療ー認知行動療法による包括的治療モデルー」講師：原田隆之准教授 司会：小池真規子教授)</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①現代心理学専攻とともに心理学研究科としての社会貢献のあり方を検討する。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①専攻の教員が大学の重要職に就いたこと、出産・育児休業中であったこと等により、他の教員に複数の役割を依頼する必要があることがあった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学部・大学院・心理カウンセリングセンター相談員としての教員の多重役割について、負担を軽減する検討が引き続き必要である。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①河合塾臨床心理指定大学院フェアにおける個別相談会出席(渡邊勉教授)。</p> <p>②現代心理学専攻と協同で広報用ちらしを作成し、首都圏の心理学部・学科等を有する各大学に郵送し、予備校等に持参した。</p> <p>③第Ⅰ期入試、第Ⅱ期入試ともに受験者数が減少した。さらに、合格者の内入学辞退者が続出し(とくに第Ⅰ期)、危機的な状況となった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①受験者、入学者増に向けての活動。具体的には、外部における広報活動、オープンキャンパスにおける全体説明会・個別相談の回数増、目白大学心理カウンセリング学科からの進学者を増やすための入試方法の検討を行う。また、入試問題についての検討を行う。</p> <p>②臨床心理士資格認定試験に不合格となった学生についてのその後の状況を継続して把握する。</p> <p>③大学卒業直後の入学者が大多数であり日中の授業を希望する中、臨床心理学専攻が現在の昼夜開講制を継続することについて検討の必要がある。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	研究科(博士)用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	心理学研究科(博士後期課程)
---------------------------	---------------	------------------	----------------

自己評価 ※箇条書きにて記入

- (1) 特筆すべき事項
平成26年度は2名に博士号を授与した。
 - 畑潮「エゴ・レジリエンスに関する基礎的研究」
 - 西野明樹「性別違和を有する者の性別移行に関する心理学的研究」

- (2) 今後の課題
 - ①平成27年度の入学者がゼロであったこと受け、現在修士課程在籍者から進学者を積極的に募る。
 - ②これまで博士課程在籍中に博士号を取得させる方針を堅持してきたが、在籍中に博士論文作成の予備審査を受けて合格した場合には、単位取得して満期退学後2年に限り博士論文の提出を認める方向で調整を図っている。

(1) 特筆すべき事項

○大学院修士課程においては、会計学コースと経営学コースを廃止した。
このことによって、学生の選択肢が広がった。
なお、大学院の正常化はほぼ終了したと認められる。

(2) 今後の課題

○修士課程においては、日本人大学院生の受験者、入学者が少ない。
今後、日本人学生にとって魅力のある大学院にすることが課題である。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	経営学専攻(修士)課程
---------------------------	---------------	------------------	-------------

項目	自己評価
教育	<p>(1) 特筆すべき事項 ○入学試験において、専攻予定の専門的基礎知識および日本語運用能力が不十分な留学生について慎重に試験を行った。そのため、不合格者を出し、合格者は減少したが、入学後の責任ある教育を行えるようになった。</p> <p>(2) 今後の課題 ○社会人学生について、仕事の繁忙期において通学が困難な場合が見られることから、補講等を適宜行い実施していく予定である。</p>
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項 ①専門分野に対応して、教員と学生の希望を勘案することにより、一人一人の学生に対して、丁寧かつ熱心な研究指導を実施できるようになった。 ②留学生に対する就職指導を研究指導のほか教員が個別に行い、不動産会社、百貨店、日本語学校など、堅実な就職を日本においてすることができた。</p>
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項 ○平成26年度は、経営研究所などとの共催による公開講座は開催しなかった。</p> <p>(2) 今後の課題 ○平成27年度は、経営学フォーラムにおいて、企業において活躍している実務家を招いて公開講座を実施予定である。</p>
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項 ○経営研究科委員会を毎月の学科会議日に行い、問題点の把握と情報の共有を図ることができた。</p> <p>(2) 今後の課題 ○退職者1名の補充はできたが、教員が不足していることから公募による補充が急務である。</p>
その他	<p>(2) 今後の課題 ○大学院に対するニーズの多様化に対応するため、企業人の再教育などの多様化も視野に入れて広報活動を行う。入学定員の削減を検討する予定である。</p>

自己評価

(1) 特筆すべき事項

○博士後期課程1年の学生が、横浜で開催された国際会議で英語で発表を行った。

(2) 今後の課題

○博士後期課程を担当するD丸合教員が順番に定年を迎える。その補充人事で、年齢を若返らせることが課題である。

(1) 特筆すべき事項

【生涯福祉研究科の課題と展望を検討する取り組み】

- ①ワーキンググループによる検討
生涯福祉研究科の入学生の増加を目指して、研究科の課題を討議するワーキンググループを立ち上げて、問題意識を持ち実力のある社会人が入学できるよう他研究科や他大学の入試形態について情報を集め、社会の現状をふまえて課題を整理するとともに、将来構想も意識して検討を続けている。具体的には、入試形態、修士論文、修了形態、専攻、福祉施設との連携などである。
- ②教員の役割分掌と責任の明確化
これまでも役割の分掌を割り当てていたが、更に役割の内容を明確にし、責任を持った対応することを期待した。

【生涯福祉研究科の周知を図る取り組み】

- ①生涯福祉研究科主催の公開シンポジウムと公開講座を企画
前年度大雪で延期した「高齢者とともに－在宅高齢者への地域における支援とその課題－」をテーマに6月21日（土）、宮武 剛客員教授に基調講演、3名のパネリストと新宿区の高齢者福祉の実情と課題を討論した。また、今年度から大学院生、学生、教員も参加しやすい12月17日（水）に公開講義を企画し、元環境事務次官・現恩賜財団済生会理事長炭谷茂氏に「福祉で人権をどのように考えるべきか」をテーマに講義を受けた。
- ②人間福祉学科および子ども学科の卒業生に対するDMの配布
生涯福祉研究科の周知の一環として、入試広報グループの協力を得て人間福祉学科はニュースレター、子ども学科はリーフレットで各学科の卒業生に対して生涯福祉研究科の紹介及び入学のお誘いを配布した。
- ③研究会・フォーラム・研修会などへの協賛
学内で開催された「子ども学科主催の公開講座」、「学内NPO法人障害者就業生活支援開発支援センターGreen Work21研修会」、リハビリテーション学研究科研修会に協賛して生涯福祉研究科名を明記した。また、「日本デイケア学会」でチラシを配布した。

【研究指導の強化】

- ①授業科目の新設
社会福祉領域で働く職員がキャリアアップにつながる「福祉経営特論」、介護領域の入学者に応える「生活支援方法特論」を新設した。
- ②倫理審査の仕組みと申請について講義
倫理審査委員の教員が、大学院生に倫理審査の仕組みと申請方法について丁寧に講義し、院生自らがそれを理解して申請できるようにした。
- ③研究生に対する科目等履修の確立
研究生は次期に大学院入学を目指して入学を希望するが、社会福祉領域の知識は乏しい場合が多い。今期から面接試験で指導教員の指導のもと、大学院の授業以外に、春学期と秋学期に最低各2科目を科目等履修生として学科の授業を履修することを義務づけた。

【心理学研究科、リハビリテーション学研究科との連携】

臨床発達心理士の受験資格を希望する院生に不利益が生じないように心理学研究科と事前に時間割の調整をして全受検科目を受講できるようにした。リハビリテーション学研究科授業の木下康仁立教大教授「修正版グランデッドセオリー」の講義を院生、教員が受講できるよう配慮した。

(2) 今後の課題

【応募者・入学者数の確保】

- ①生涯福祉研究科の魅力を知り活動
生涯福祉研究科の魅力を周知する一環として、公開シンポジウムの他に今年度は公開講演会を2回予定する。これらの活動を学生、卒業生、院生、他大学、実習施設、地域の社会福祉施設などへチラシとして配布する。また、目白大学で開催される福祉関連の研修会に協賛する。
- ②学科の卒業生へリカレントの周知
学部学生に対して早い時期から大学院を周知する、卒業生に学科のニュースレターや同窓会報などを通して働きながらリカレントすることの意義を伝えて学びを促す、などを定期的に行い、入学者の確保につなげる。
- ③入試形態と修了在り方の検討
社会人が入学しやすいように、秋学期入学、入試形態の変更、1年修了など社会人が学びやすく、社会の実情に合った入試形態を検討する。
10月福祉領域のなかに介護に関わる科目を設定し、介護を仕事とする社会人の学びの場にすることを検討する。
- ④資格のキャリアアップに応える仕組みを検討する
今年度、認定社会福祉士認証・認定機構の認定社会福祉士の資格取得が可能になるよう大学院の科目の認証を申請可能な科目から申請する。また、大学で社会福祉士や精神保健福祉士、介護福祉士を取得できなかった学生が資格取得できる仕組みを作ることが可能か引き続き模索する。
- ⑤福祉施設と連携して社会人入学者の確保を検討する
福祉施設職員のなかに人手不足、経済的理由、時間確保など障害となり、大学院で学びたくても入学できない状況にある。そこで、大学と福祉施設で連携して福祉施設から職員を派遣するなどの仕組みなどを検討したい。

【大学院教育】

- ①中国学術文献オンラインサービスの導入
毎年、中国の留学生が複数名いることをふまえて、目白大学図書館を通じて中国学術文献オンラインサービスで福祉領域の文献を検索できるようにすることで、研究の利便性をはかる。
- ②大学院教育科目の見直し
社会状況をふまえて、社会が求めている大学院教育や生涯福祉研究科の立ち位置を確認し、カリキュラム構成、修士論文の在り方、専攻について、他大学の情報収集もふまえてワーキンググループで検討し、研究科全体で方向を定めるようにする。
- ③実践的研究の推進
より高度な専門職の養成につなげるために、生涯福祉研究科の特色である多様な研究・調査の場（NPO法人など）をさらに活用するとともに、院生が在職する福祉施設と連携して実践的研究を推し進める仕組みを確立する必要がある。
- ④倫理審査のスケジュールの改善
修士論文の指導が倫理審査のスケジュールに沿わざるを得ないこと、申請から審査結果が出るまで2ヵ月を要すること、などため修士論文の作成と指導が柔軟に対応できなくなっている現状が改善されることを期待する。
- ⑤他の研究科との情報や研究の交流
生涯福祉研究科と関連する心理学研究科、リハビリテーション学研究科などと時間割、授業の相互履修、情報の共有などで連携を図り、教員、院生の視野を広げるとともに研究を深める機会にする。
- ⑥近隣大学や外国の大学との交流
留学生も在籍するなど福祉に関わる国際交流や近隣大学の教員や院生と授業・研究会で相互交流できる企画を設定し、多様な視点から福祉の理念や実践を考える機会にすることも重要であろう。

【研究科組織と運営】

- ①教員人事
教員人事は、専任教員の全員が学部兼務（人間福祉学科及び子ども学科）であるため学部の人事が優先され、大学院の人事もそれに従わざるを得ない難しさがある。したがって、科目によっては大学院専任の特任教員を採用するなど、より質の高い教育を可能とする仕組みが必要であろう。
- ②役割の分掌

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	生涯福祉専攻
項目	自己評価			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①院生の研究の進捗状況合わせて、研究デザイン発表Ⅰ、Ⅱの機会と中間発表を設けて、指導教官だけでなく多くの教授からアドバイスや指導を受ける機会とした。</p> <p>②理論と実践の学びと共に修士論文の研究を深めるために、院生の臨床現場への見学や参加を今年度も積極的に進めた。</p> <p>③研究生、院生、主に海外留学生に学部講義を聴講可能とし、不足している語学や専門知識の補完の機会とした。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①留学生の語学の向上、専門知識の不足、国情の違いによる課題が大きくなるが、困難なく学べるための体制の確立を進める。</p> <p>②社会人院生の研究活動の時間的制約考慮して、指導時間や日程をカリキュラム以外でも柔軟に対応できることの検討が必要である。</p> <p>③「認定社会福祉士」等の新たな資格取得が可能となるように進める。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①少人数の講義が多いためきめ細やかに行うことができている。</p> <p>②福祉現場で働いている院生もいるので、具体的な事例を取り上げてディスカッションが行える。</p> <p>③留学生もいるので、それぞれの国の制度の違いや価値観の違いなどグローバルな視点で考えることができる。</p> <p>④院生との意見交換会を行う。</p> <p>⑤中国からの留学生に対する支援として、中国語学科の協力を得る道を開いた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学会参加や発表の機会を積極的に進める。</p> <p>②修士課程修了後の具体的な活動場所の支援。</p> <p>③同窓会組織の構築。</p> <p>④院生と意見交換をしつつ情報を共有する。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①今年度の公開シンポジウムの開催は、前年度2月に予定していたが大雪で延期したため6月に実施した。</p> <p>②第1回公開講義を12月に実施した。</p> <p>③NPO障害者就労支援チャレンジショップの学内での運営と障害者による販売実習の支援を昨年度に引き続き継続。</p> <p>④NPO福祉フォーラム。ジャパンの支部活動を行う。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①福祉領域を広げて公開シンポジウムを開催する。</p> <p>②福祉領域の公開講義を複数回開催し、福祉施設関係者や地域住民、院生、教員の参加をもとめ、学びの場とする。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①昨年度に引き続き、月1回の専攻科会議の開催が定期的に行われ教員間の共通認識が進んだ。</p> <p>②入試広報、教務などの役割を担当教員がしっかり果たした。</p> <p>③研究科内の役割をより細分化して内容を確認して担当教員を配置し、教員全員で運営する体制を構築した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①専攻科の科目の見直しを検討する。</p> <p>②生涯福祉研究科と関連した他の研究科との連携を図る。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①福祉施設への実習巡回指導などの際に、生涯福祉研究科パンフレットを今年度も配布した。</p> <p>②人間福祉学科と子ども学科の既卒者に大学院紹介のニュースレターやチラシを配布した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①入学希望者を増やすために、公開シンポジウム、公開講演会を通じて生涯福祉研究科をアピールするとともに、社会人が入学しやすい方法や教育内容について検討する。</p> <p>②現在の倫理審査が新宿キャンパスの学生にとって、研究の進捗と合わず不利益をもたらすことがあるので、新宿キャンパスに倫理審査委員会を立ち上げる必要がある。</p>			

(1) 特筆すべき事項

【教育】

- ①6月に学外からの招聘講師と多数の参加者を得て、外国語教育研究会を開催し、今後の外国語教育の在り方について活発な質疑応答や意見交換を行った。
- ②8月に全教員と院生が参加して修士論文中間発表会を開催し、2年次生の修論作成作業の促進を支援するとともに、1年次生にも修論作成の心構えを教授した。③2月に、全教員と院生が参加して修士論文の口述試問を行い、各院生の研究成果の発表とそれに対する教員・院生からの質疑応答を通して、それらの成果の意義を確認した。

【学生指導】

精神的または経済的な問題を抱えた院生に対し、ゼミの指導教員が中心となって適切な指導・助言を行った。

【社会貢献】

- ①公開授業の実施や研究会の開催を通して、大学院生に対してだけでなく、広く英語に関心を抱いている一般の人々にも最先端の研究事例を紹介できた（英語・英語教育専攻）。
- ②日本中国語教育学会、日本韓国語教育学会の大会、研究会等において本学教員が中心的役員として活動した（中国・韓国言語文化専攻）。

【組織マネジメント】

専攻の改組と入学定員の見直しについて検討を開始した。

【その他】

- ①公開授業を実施し、また公開シンポジウムや外国語教育研究会を開催するなど、研究活動の活性化に貢献できた（英語・英語教育専攻）。
- ②「教育訓練給付講座」の指定を受けることができ、社会人学生の更なる獲得に弾みがついた（日本語・日本語教育専攻）。

(2) 今後の課題

【教育】

- ①本研究科・専攻の設置目的（あるいは人材育成目的）を明確化し、その目的を達成するためのカリキュラムの整備・充実を図る必要がある。
- ②本研究科の主要な人材供給源となるべき本学外国語学部との、接続教育の在り方について検討する必要がある。
- ③レポートや修士論文の作成に関する基本的な指導を徹底する必要がある。

【学生指導】

- ①修士論文を日本語で書くことに躓いてしまう留学生に対して然るべき支援が必要である。
- ②留学生の日本語・日本文化に関する全般的な知識不足の問題はかなり深刻で、何らかの対策が必要である（特に日本語・日本語教育専攻）。
- ③大学院の交換留学制度を充実させる必要がある（中国・韓国言語文化専攻）。

【社会貢献】

- ①日本語教育学会の大会を本学に招致する準備を行う必要がある（日本語・日本語教育専攻）。
- ②国際的な研究者交流を考える必要がある（特に中国・韓国言語文化専攻）。

【組織マネジメント】

- ①専攻の改組や入学定員の見直しを図るなど、定員未充足問題を解消するための具体的方策を検討する必要がある。
- ②日本語・日本語教育専攻では、留学生を含め、日本語学及び日本語教育学を志望する学生が大半を占めており、特定の教員に過重な負担がかかっているため、適切な人員配置を行う必要がある。

【その他】

- ①他大学等の非常勤講師を務めるなど経験豊富な社会人修了生を、本学の有期雇用ないし非常勤講師等の然るべきポストで採用することにより、結果として日本人学生志願者の増加などの好循環へと結びつけていく努力をする必要がある（日本語・日本語教育専攻）。
- ②中国言語文化分野と韓国言語文化分野の分離を検討し、同時に博士課程の設置を検討する必要がある（中国・韓国言語文化専攻）。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	英語・英語教育専攻
項目	自己評価			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①修士論文中間発表会では、中国人留学生にプレゼンテーションの練習を徹底したところ、説得力のある発表を行うことができた。社会人学生で中学校教員を勤めながら、5年の歳月（休学期間を含む）をかけて研究に取り組んだ学生が、晴れて報告書を完成することができた。研究報告書での修士号認定第1号となった。</p> <p>②6月の外国語教育研究会では、言語習得論に関する講演があり、講演後の質疑応答の中で、文献研究で週に1冊または1論文の読破など、修士論文作成への取り組みが話題となり、学生には論文作成へ向けて、大いに参考となるものであった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学生間の学力差がかなりあり、個別指導を徹底する必要がある。授業では英語の討論などを通し、表現力の養成を図る必要がある。留学生には英語力だけでなく、日本語能力においても差が見られる。日本語作文力の伸長を図る学習が急務である。</p> <p>②コピーしそのまま表現を少し変えただけで、脚注をつけずに課題に取り入れている例が見られる。剽窃を起こさないよう、引用のやり方に関する注意事項を徹底的に指導する必要がある。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>○経済的な問題を抱えている学生や、日本語作文力に自信のない留学生等は研究が思うように進まず、精神的に落ち込む例が見られた。ゼミの指導教員が中心となり、面談時間を増やし学生の心身面での助言を行い、改善に努めた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○留学生だけでなく日本人学生も、日本語での論文作成において、初歩からの指導が必要な例が見られる。大学院レベルの日本語読解力、作文力の育成が急務である。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>○講演や公開シンポジウムの開催を通し、大学院生だけでなく広く一般の人々で、英語教育に関心を持つ人々にも、最先端の言語習得論や小学校英語教育の研究事例を紹介することができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○公開授業などを促進し、英語学や英語教育に興味を持つ人々に周知し、大学院の授業の魅力を共有する場を提供する必要がある。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>○入学定員の充足ができていないため、閉講となる授業が見られる。入学定員確保へ向けて研究科全体の具体的な方策を打ち出す必要がある。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○定員を大きく下回った。定員の充足に向け、専攻の構成員全員が協力して入試広報活動を行う必要がある。また、ここ3年間入学者数は低迷を極めており、定員5名への変更を検討すべきである。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>○公開シンポジウムおよび外国語教育研究会を開催し、研究活動の活発化に貢献した。</p> <p>[1]第6回外国語教育研究会 2014年6月28日(土)14:00～17:00 参加者: 33名 場所: 目白大学新宿キャンパス1号館4階1400室</p> <p>①講演「第二言語習得研究の現在- focus on form、気づきを中心に」14:00～15:00 佐野富士子(横浜国立大学)</p> <p>②シンポジウム「私はどのように修士論文に取り組んだか」修了生2名が論文作成の苦労話や研究方法のヒントを語った。</p> <p>[2]公開シンポジウム「日本の英語教育を発信する 第7弾」共催: 目白大学英米語学科</p> <p>日時: 2014年10月25日(土)15:00～18:00 場所: 目白大学新宿キャンパス1号館01400教室 参加者: 約40名</p> <p>第1部 講演「小学校英語」〈1〉「アクティビティ」藤原真知子(聖学院大学総合研究所・聖学院小学校)</p> <p>〈2〉「iPadとアプリの活用」J・ナイティンゲール(聖学院大学総合研究所・聖学院小学校)</p> <p>第2部「シンポジウム—目白大学から世界へ」目白大英米語学科卒業生の発表</p> <p>〈1〉水野優(商社勤務 英国リーズ大学大学院MA)</p> <p>〈2〉久山公誉(千葉県 公立中学校教諭)</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○大学院生だけでなく、学部学生の積極的参加を促すシンポジウムや講演の企画が必要である。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	日本語・日本語教育専攻
---------------------------	---------------	------------------	-------------

項目	自己評価
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①入学定員10名を超過する、12名の入学者があった。 ②研究論文指導担当者が3名となったが学生は3、4、5名に分散し、支障なく進行している。 ③1名の修了延期者、1名の論文不合格者があったが、12名が無事、修了した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①研究論文指導担当者の不足は否めない。27年度も3名体制である。28年度の教員人事で対応されたい。 ②カリキュラムについては、特段の不足はないが、留学生主体であるため、問題点はないかを検証しておくべきであろう。
学生指導	<p>(1) 特記すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1名の修了延期者、1名の不合格者（修了のため留年）は惜しまれるが、退学者は数年来なく学生の勤勉さを評価したい。生活態度に問題のある学生は見られず、教員の指導にも誠実に努力している。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本人学生の入学はまれである。26年度も1名(27年度は2名の予定)であった。改善せねばならない。
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「教育訓練給付金講座」に指定された。27年度入試で1名の該当者が入学する。社会的にアピールしたい。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当面、博士課程を設置しないとすれば、社会人の再教育機関としての位置づけにも意識的に取り組みたい。上記講座指定など広く伝えたい。
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○設置の基盤となるべき外国語学部から、27年度より、授業担当教員として、日本語・日本語教育学科准教授が加入することとなり、その手続きが完了した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○例年10編を上回る修士論文は、指導はもとより、査読も相当の負担である。査読の平均化も考えたい。
その他	

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	中国・韓国言語文化専攻
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①中国言語文化関連分野と韓国言語文化関連分野とが、それぞれ修士の学位を授与できるようになっており、これが維持されている。</p> <p>②中国・韓国それぞれにとどまらず、「東アジア」全体を視野にする広範囲の学習が可能となり、科目が設置されている。</p> <p>③今年度は入学定員10名を充足し11名が入学した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①中期計画では中国言語文化関連分野と韓国言語文化関連分野とが、それぞれ独立することが求められている。</p> <p>②中期計画では「東アジア」の視点を拡大し「学際カリキュラム」を構成することが求められている。</p> <p>③中期計画では博士課程の設置に向けて、努力を継続することがうたわれている。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①韓国(慶熙大学校大学院)への交換留学生1名を本専攻から派遣することができた。</p> <p>②現地での研修・研究を推進する「臨地研究」の科目が設置されて、履修者が継続している。</p> <p>③韓国言語文化関連から3名の修士(韓国言語文化)の学位取得者があった。</p> <p>④中国言語文化関連からは今年度の修士の学位取得者はなかった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①博士課程に進学する修了生があるので、これを本学で受け入れたい。</p> <p>②学位授与に価する学生を着実に育成したい。</p> <p>③大学院において交換留学制度を定着させるには博士課程の設置が望まれる。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①中国言語文化関連分野、韓国言語文化関連分野の教員とともに、国内外における各種講演会活動で社会貢献をしている。</p> <p>②中国言語文化関連分野、韓国言語文化関連分野の教員とともに、国内外における各種学会活動で役員をこなし社会貢献をしている。</p> <p>③韓国言語文化関連分野の教員は国内外における各種「韓国語スピーチコンテスト」で審査員を務め、また、各種「韓国語検定」の業務をこなし、社会貢献をしている。</p> <p>④韓国言語文化関連分野の教員は、教職免許更新の講師を務め、社会貢献をしている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①国内外における講演活動、社会活動が滞りなくできるように、業務の効率化が求められる。</p> <p>②学会活動が滞りなくできるように、業務の効率化が求められる。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①有期雇用教員の期限切れに伴う採用人事があり、修士論文指導補助教員の補充がなされた。</p> <p>②本専攻の構成員の昇格人事があった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①中期計画により中国言語文化関連分野と韓国言語文化関連分野との分離が求められている。</p> <p>②中期計画により大学院博士課程の設置に向けた努力の継続が要請されている。</p> <p>③中期計画により「学際カリキュラム」の構成が要請されている。</p> <p>④中期計画により「4+1」といわれる学部と大学院との五年一貫した修士課程の設置が計画されている。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①大学院資格審査委員会において、修士論文指導補助教員の資格審査が行われ、承認された。</p> <p>②今年度入試問題は早期に検討され、作成された。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学部に連動し、大学院においても人事の在り方が検討されることになる。</p> <p>②大学院入試業務の点検が必要になる。</p>			

(1) 特筆すべき事項

【教育課程】

○カリキュラム委員会に置いて28年度からのカリキュラム改訂を決定した。改訂の骨子は3分野の教育目標を明確にした教科目の配置とコースワークの充実である。

長期履修制度は2～3人の応募者があり、指導計画も定着した。また修士論文指導も倫理審査委員会開催に合わせて1年次より計画的におこなわれた。

【学生指導・入学者選抜】

○入学時より論文指導教員と他教員によるチームティーチングにより、計画的な論文指導が行われている。

26年度、はじめて2名の学生が修士論文提出に至らなかった。

院生は、中堅・管理クラスの社会人を多く受け入れている。応募者は、修了生、在学生の紹介及びホームページ閲覧がきっかけとなるケースが増えている。平均年齢は若齢化する傾向である。

【社会貢献】

○大学院と国立病院機構埼玉病院の共同研究5年目として、和光朝霞地区にがんピアサポーターの養成を実現すべく、基礎調査を続け成果を関連学会に報告した。しかし地域、病院との連携が十分とは言えない。

【組織マネジメント】

○大学院設置以来貢献してきた3人の教員の後任の教員の資格審査を受審した。

マネジメント看護学分野(看護管理学)の指導教員が手薄となり強化を図る必要がある。

設置以来6年が経過した。教員は大学院、学部教育、実習指導と多重業務に慣れてはきたが、疲労もみられる。

(2) 今後の課題

- ・改訂カリキュラム実施のための教員の適正配置
- ・大学院共通の課題として、AP・CP・DPの明文化、中期目標計画の策定。
- ・教員の研究力向上のためのFD活動や環境整備をし将来の博士課程開設に備える。
- ・分野別評価を意図した看護系大学院修士課程のコアコンピテシー目白版を検討する。
- ・学内からの進学がしやすいような方策を検討する。
- ・公開講座・科目履修生の募集など実習病院の看護師、本学卒業生に積極的にアプローチする必要がある。
- ・「認定看護管理者」資格認定を促す、また必要な教科目の配置をおこない魅力あるカリキュラムを組む。
- ・看護系大学教員の育成としてTAを活用し意識的に教育する。
- ・学部・院/事務部門と業務調整をおこない教員の健康管理を図る。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	看護学専攻
項目	自己評価			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成28年度カリキュラム改正の検討を行った。</p> <p>②社会のニーズや学生のニーズと照らし合わせ、教育目的・目標の点検、コースワークの再構築をおこなった。</p> <p>③具体的な検討内容：マネジメント分野の強化、「認定看護管理者」申請に必要な教科目の配置検討、コミュニティ看護学の定義と授業概要の検討。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①AP、CP、DPの明文化および中期計画の策定。</p> <p>②看護系大学院修士課程のコアコンピテンシー（目白版）の検討。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①10名が修士論文および最終試験に合格した。平成24年度長期履修制度を取り入れて初の修了生2名も含まれている。</p> <p>②長期履修生のための研究指導計画を各分野別で立案し安定化した。</p> <p>③2名の学生が修士論文に至らなかった。</p> <p>④入学者は、修了生の紹介で受験を決断した院生が少しずつ増えてきている。</p> <p>⑤学生獲得策として、主な学部の実習病院の本学卒業生を対象に相談会の案内状を送付した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①大学の卒業生も臨床5年目となり、大学院入学を検討する時期となる。卒業生獲得のための広報活動の検討と実施。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①大学院と国立病院機構埼玉病院の共同研究5年目として、和光朝霞地区にがんピアサポーターの養成実現に向けての基礎調査を行い成果を関連学会に報告した。</p> <p>②特別講演実施の場合、実習施設へも案内し参加を募った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①特別講演等のテーマによって近隣にも広報活動が可能かの検討。また実習施設のみでなく、卒業生がいる近隣の施設への広報活動も視野に入れての検討。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①教員の研究力向上のためのFD活動を行った。リハビリテーション学研究科と共同開催とし、質的研究方法についての講演会を実施した（1回目：リハビリテーション学研究科主催、2回目：看護学研究科主催）。</p> <p>②大学院教員3名の後任の資格審査を受審した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①看護学部独特の実習に伴う業務、指導、授業の過密さと大学院業務との多重業務における疲弊の調整。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①教育課程、指導体制、学習環境について在学学生および修了生対象に「意見を聴く会」を実施した。また修了生対象にアンケートの実施および分析を行った。</p> <p>②学習環境の改善として大型液晶ディスプレイや机・椅子などの追加し、特別講義に使用した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①修了生からの学習環境のアンケートにおいて、院生室のパソコンや印刷機の定期的なメンテナンスの希望があがった。（使用頻度も高く、パソコンと印刷機との接続が悪くなることが多いため）。</p> <p>②夜間開講だから目白大学に入学したという院生が多い。土曜日の開館時間の延長希望者が多く、その可能性について検討の余地あり。</p>			

(1) 特筆すべき事項

- ①特別研究（選択必修科目）について、修得単位を4単位から6単位、配当年次を1～2年次、1年次秋学期からの必修科目とするカリキュラム改訂を行った。またこれに伴い、選択科目の修得単位数を8単位以上から6単位以上とした。
これは1、2期生の特別研究の指導は実質的に1年次から積極的に実施されてきたこと、1年次秋学期にブレデザイン発表会を行い、目白大学「人及び動物を対象とする研究にかかる倫理審査委員会」への申請を1年次のうちに行うよう指導していることから、教育の実情に合わせた改訂である。また必修5科目の配当年次を1年次から1・2年次とし、殆どが現職者である院生の受講の利便に配慮した。
- ②リハビリテーション分野では質的研究法への関心も高いことから、リハビリテーション研究法特論の授業に非常勤講師による授業枠を設定した。他研究科からの聴講も可能としたところ、心理学研究科、看護学研究科教員、院生等、40人を超える受講がありニーズの高さが確認された。来年度以降も継続し、さらに充実させたい。
- ③3分野のそれぞれから1名、計3名について、研究科内の審査、大学院教員資格審査委員会で審議を行い、平成27年度からの研究指導補助教員として承認された。
- ④秋学期実施の公開フォーラムを「地域包括ケア推進の今日的課題」をテーマとして実施した。最先端の話題が提供された質の高い内容であったが、受講者数は40名を超える程度で広報の在り方にさらに工夫が必要と考えられた。本年度から時代のニーズに合わせて、障害のある受講者のために情報補償（字幕による講演内容提示）を実施した。
- ⑤1期修了生のアンケート協力を得て「教育訓練給付金講座」への指定を申請した結果、平成27年度からの指定が認められた。
- ⑥平成26年度入学者が作業療法分野4名のみであったことから、病院・施設等への訪問説明会、学会等での広報に努め、結果として平成27年度は3分野で計7名（すべて現職社会人）の入学者があった。
- ⑦看護学研究科と合同の博士後期課程設置を目指し検討を行ってきたが、申請に至るには時期尚早であった。またリハビリテーション3分野を基盤とする課程としての検討が現実的との判断もあり、その方向で再検討することとなった。
- ⑧研究科設置後3年を経て、教員の勤務地と研究科設置場所が異なることによる不便は徐々に解消されてきた。校費、実験実習費の使用に関わる教員の事務手続きについて、来年度から岩槻キャンパス庶務で取扱可能となりさらに一歩前進できた。

(2) 今後の課題

- ①現状に合わせたカリキュラム改訂はできたが、リハビリテーション分野における時代のニーズの変化も大きいところから、引き続き検討を続ける必要がある。
- ②修了生、在学生の博士後期課程設置へのニーズは大きい。リハビリテーション3分野を基盤とする後期課程設置を再検討する。
- ③定員の充足、とくに理学療法分野、言語聴覚療法分野での入学生増について、さらなる努力・工夫が必要である。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		研究科(修士)用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	リハビリテーション学専攻
項目	自己評価			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①2コマ続けての講義・演習を隔週で実施することで、学生と教員の利便を図った。</p> <p>②教員審査を実施し、来年度から理学療法リハビリテーション分野1名、作業療法リハビリテーション分野1名、言語聴覚療法リハビリテーション分野1名の教員を大学院担当教員に加えた。いずれも研究指導補助教員。</p> <p>③研究法(質的研究法)に関する教育を充実するために、非常勤講師による授業の充実をはかった。</p> <p>④特別研究の実際の指導状況を反映して、現行の2年次4単位から、1年次秋学期2単位、2年次4単位の計6単位の選択必修科目とするカリキュラム改定を行った。これに伴い、選択科目の履修は8単位以上を6単位以上に改定した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①教員審査を適正に行い、教員の充実を図る。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①修士論文指導において、構想発表会(5月)、中間発表会(11月)、最終発表会(2月)を実施、最終試験を経て長期履修(3年)を含む8名が修士学位を取得した。</p> <p>②1年次から実質的に論文指導を開始し、プレデザイン発表会を秋学期(11月ないし2月)に実施した後、「目白大学人及び動物を対象とする研究に係る倫理審査委員会」への申請を行う体制を整備した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①1年次からの特別研究の指導開始により、1年生からの指導を充実するとともに、2年生との研究的交流を活発にしたい。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①リハビリテーション学研究科主催の公開フォーラムを開催し(9月)、外部講師を招聘して国の医療福祉行政の方向を反映したリハビリテーション職種の内実について研修した。40名を超える参加者を得たが、広報の内実については課題が残った。</p> <p>②フォーラム、公開講演会等は生涯福祉研究科と相互に協賛して実施しているが、今後も連携を深めたい。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①公開フォーラム開催、生涯福祉研究科との相互協賛は今後も継続して、院生の教育に資すると共に社会貢献の機会としたい。フォーラムの周知に関わる周知の方法は改善を要する。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①毎月、保健医療学部教授会と連動してリハビリテーション学研究科委員会を開催して(計11回)、情報の共有を図った。</p> <p>②教務委員会と入試広報委員会は原則合同で月1~2回開催し(計16回)、研究科運営に関わる企画立案、推進を担当した。</p> <p>③研究科予算の立案、執行について研究科長・専攻主任を補佐する担当教員を置き、また予算関係事務が岩槻キャンパス庶務で可能になるよう申請して、予算執行体制の改善を図った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①新年度より岩槻キャンパスでの予算関係事務が可能になったので、より円滑な予算執行を実現したい。なお学生からの実験実習費にかかる手続き等は新宿キャンパス教務グループで引き続き担当するため、学生にとっての不便は生じない。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①1, 2期修了生のアンケートへの協力を得て、「教育訓練給付金」の対象となる講座への申請を行ったところ、平成27年度入学生から指定講座として内定した。</p> <p>②受験生確保、入学生の専攻分野のアンバランスの解消を目指して、リハビリテーション職者の多い病院・施設等への訪問説明会を5月~7月に3回実施した。さらに専門学校等荷も広げる必要がある。</p> <p>③博士後期課程の設置について看護学研究科と合同で検討してきたが、時期尚早であった。改めてリハビリテーション学研究科独自の構想として継続していきたい。そのために、博士課程への入学希望等に関する調査を継続して実施した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①リハビリテーション3分野(理学療法、作業療法、言語聴覚療法)を基盤とした博士後期課程設置に向けた検討に取り組む。</p>			

学部・学科

(1) 特筆すべき事項

1 研究面

- ①平成26年度も、各学科により過年度と同様の研究上の特徴が見られた。学会論文寄稿、研究論文・海外発表などに積極的に取り組む学科（心ウンセリング）と地域との連携重視し、教育実践を探求する研究に力点を置く各学科（人間福祉・児童教育・子ども学科）とに別できる。
- ②科学研究費や特別研究費への応募は横ばいであった。論文発表はやや減少したが、海外雑誌掲載等は増加した。
- ③人間学部の各学科が共通して、地域や多様な教育施設との共同研究や実践研究に取り組んできた。

2 教育面

- ①学生の学習意欲の喚起、授業規律の確立など、授業改善に関わる取り組みは各学科が共通して取り組んできた。キャリアの時間のみでなく、専門科目の時間においても実施された。各学科共に学科会において、授業の改善に関わる論議の場を設定している。
- ②行事を指導の柱とする学科、教育現場への参加の重視、地域連携・ボランティアの奨励など特色ある教育活動が展開されてきた。子ども学科および児童教育学科では、まみむめめじろ、大学祭、グループプレゼンテーション、田植えなどの身体性を重視した行事を企画・実行している。教師主導から、学生主体へと取り組みを変化させている。
- ③各学科とも、学級担任の業務の確認、ゼミ指導など、きめこまかな学生指導などに積極的に取り組む姿勢見られた。各学科ごとにベーシックセミナーのもちかた、ゼミ指導等について毎回の学科会で論議している。個別指導・個別面談を行ってきた。

(2) 今後の課題

学部教授会の設置にともなう対応が基本的な課題となる。

○27年度の具体的な課題

- ・学科間の連絡・調整・情報の交換、学内各組織と学科の活動との連携をすすめる。教務委員会を中心とした学部共通科目の見直しを進める。資格支援センターと連携して特別支援教育免許状取得に向けての取り組みを開始する。
- ・国家試験対策を重視し、合格率を高める。採用試験対策の長所を共有することに努める。採用試験対策を強化する。人間福祉学科では、社会福祉士・看護福祉士・精神保健福祉士、子ども学科では、保育士、児童教育学科では、小学校教員の採用への合格率を高める。心理カウンセリング学科では、将来の「公認心理士」免許設置の動向に向けた対応策を検討し、実施する。
- ・キャリア教育の充実
初年度教育から卒業後の進路に向けて個々の学生への個別指導を重視することを4学科共通の対応策とする。
- ・設置する科目・科目数の各学科の教務委員等による検討の具体的な推進をする。
- ・地域の教育委員会との連携を促進する。
心理カウンセリング学科・人間福祉学科は新宿区教育委員会・江戸川区教育委員会と、児童教育学科は中野区教育委員会・練馬区教育委員会と連携した活動を展開している。子ども学科は都内及び近県のような地域、教育施設と協働している。これらに関連させ、目白大学人間学部として、地域教育への貢献、多様な教育資源の活用による本学教育の有効な促進を図る。地域との連携は本学の教育活動への理解を深める機会となるばかりでなく、学生の将来の進路選択への有用な手立てと認識している。
- ・図書館、学校、記念館など多様な教育資産の開発・活用も共同で進める。学部教授会において、4学科の教育活動やその特質を報告する会を設定する。このことを通じて人間学部として各学科の教育資産の活用を促進する。
- ・学科連携のための話し合いの場の設定を進める。学科長会議を定例化し、共通理解を深める。
平成27年度春学期においては、各学科の教務委員、入試広報委員の共通理解を将来に向けての話し合いの場を設定する。秋学期において、キャリアセンター委員の論議の機会を意図的に設定する。年間を通して順次こうした役割分担に対応した論議の場を設置する。
- ・学部教授会において、適時報告・提案を行い、学部全体としての共通理解を深めていく。
- ・本学人間学部に通じた、学習方法の改革に取り組んでいく。
平成27年度7月までに各学科のFDの取り組みを明確にする。FD委員および教育研究所の協働により、人間学部としての学習方法の改革をつめる。参加・協働・探究・対話型授業の方法を研究していく。また、将来の進路にかかわる技能を習得させるためのスキル教育についても検討を進めていく。

○教育課程の内外における社会的・職業的自立の重視大学教育の新たな方向として「課外の様々な指導を通じて有機的な関連」が示されている。この背景には、「学びから就業への円滑な移行ができていない」現状の改善が大学教育の緊要の課題となっていることがある。「課外の様々な指導を通じて有機的な関連」を考察するに、知識基盤社会から要請されている「社会的・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力」「多様な社会グループにおける人間関係形成能力」「自立的に行動する能力」を育成するために、大学教育のあり方を改善する必要性を示唆していると受け止めることができる。さらに多文化共生社会への対応についても重視していく。それは大学内部における教育活動全体および授業の改善を図ること、それに加えて大学を中心としつつ、多様な教育資源の活用、さまざま教育機関や地域とのネットワークの構築の必要に収斂できると考え、これらを次年度も積極的に推進していく。

○教員の研究・研修を奨励する。

学会・研究会への参加、論文作成を奨励し、その成果を報告・発表する機会をつくる。本学における学会・研究会開催を積極的に展開する。こうした研究・研修活動により、教育実践者としての各教員の資質・能力・技能を高める。また、多様な教師スキル習得の機会とする。

上記の具体的な課題の対応策としては、学部教授会においてできる限り開放し、人間学部教職員の共通理解を深めていく。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	心理カウンセリング学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①予定通り、外部講師による学科講演会を2回実施した <ul style="list-style-type: none"> ・7月「横浜市社会福祉職としての今」(岩井研策 目白大学卒業生) ・12月「専門家からみたキャリアの世界」(江戸川区「若者きずな塾 狩野賢先生) <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①精神保健福祉士資格が学科単位での申請となったが、今後心理カウンセリング学科として各種資格取得について検討する必要がある。 ②次年度以降も在学生対象の学科講演会を年2回開催する。 ③外部実習授業(ピアサポート)は以前は中学校および小学校で実施していたが、現在は小学校のみで活動している。大学生レベルの実習では小学生対象が適切と考えてのことであるが、履修人数によっては今後再考する必要がある。 			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①論文発表は昨年度27件に対し今年度21件、書籍出版18件から13件とやや減少した。海外雑誌掲載は2件から4件に増えた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①論文発表をさらに増やすよう務める。平成27年度より昇進基準に業績論文数が掲げられたため、特に専任講師や准教授には必要業績をそろえるように勧めていく。 ②外部研究費はある程度獲得しているが、さらに補助金等を得て研究活動を活発に行う。 			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①就職率は昨年度85%であり、今年度さらに向上を目指したが87%ではほぼ同程度であった。一方、4年で卒業できない学生も依然多い。過年度生数の目標を今年度10名以下としたが、昨年度実績11名に対し今年度15名であり、目標は達成できなかった。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①就職状況は改善してきていると言われるが、今年度はさらに就職率90%を目標とする。早い段階より就職への意識付けをしていきたいと考える。特に2年次のキャリアデザインから3年ゼミ指導において積極的な就職指導をしていく。3年次ゼミではゼミにより就職対策・対応に差があるので、FD活動などを通じて就職指導を進めたい。 ②過年度生数の総数をできれば10名以下にする。必修科目であるベーシックセミナーおよびキャリアデザインにおいて、出席状況の良い学生に早期指導するよう心がける。 			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①例年どおり新宿区と提携し、学部学生が区内小中学校に赴きピアサポートとしてスクールカウンセリングの補助を行い、学校現場に寄与した新宿区特別支援教育事業で巡回指導を行った(専任教員3名) <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①上記ピアサポート授業を継続する。 ②新宿区特別支援教育事業で巡回指導を継続する。 			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①今年度より教授会が学部単位となり、定期的に学部学科長会議が行われ、学科間の意思疎通が図られた。 ②今年度、学科内の各種委員が大幅変更されたが、各種委員が十分機能的に働いたと考えられる。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次年度以降、昇格等について基準が設けられるようになるが、論文条件など適切な基準になるよう、学科構成員の意見も聞いて設定したい。 			
その他	<p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前年度より引き続き、カウンセラーの国家資格として公認心理師の法案作成が検討されている。資格として認定された場合、学科カリキュラムの変更が必要となる可能性がある。情報を収集し、適切に対処できるよう準備していく。 			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	人間福祉学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項 ○近年、学生の学力差が顕著であるため、授業での工夫が重視され多くの教員によって、単位修得に困難を来す可能性のある学生に対して、小テストやレポートによるきめ細かい講義の理解度を確認する工夫が行われている。また問題とされる学生については、学科会議などで意見交換をしている。</p> <p>(2) 今後の課題 ○学年によって異なるが、1、2年生は必修科目の担当教員との間で、単位未修得学生に対する状況の共有化や意見交換を通し学生の学習上の問題状況への対応を積極的に進めている。</p>			
研究	<p>(2) 今後の課題 ○昨年は個別の教員が研究比の公募などへ積極的にチャレンジしている。しかし採択には必ずしも至っておらず、継続研究などでの範囲にとどまっており、今後も積極的に外部からの研究資金導入の機会を通して、チャレンジすることを目標としていく。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項 ○3月から4月にかけて授業料の納付時期でもあるため、大学に長期に来ていない学生への連絡をし、新学期からの大学での学習サポートをベーシックセミナーやキャリアデザインの担任教員が進めている。学生へ科目履修のサポートなどで一定の成果を上げているものの、休学や退学となる事案も生じている。 ○例年と同様に3年及び4年は、専門セミナーや卒論ゼミという集団で個別的な学生の状況を把握し、就職などに関する進路及び学習上の課題のある学生への個別指導を行っている。</p> <p>(2) 今後の課題 ○近年、入試状況の厳しさを反映して、学生間の学習レベルの格差が深刻な問題となっており、学習意欲や問題関心をどのように持って日常の授業への出席へ促していくのかに、新たに学科会議などで意見が出されている。この点の検討を早急に進めたい。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項 ○各教員は研究との関わりや実習などで現場との関係を通して、スーパーバイザーや各種の委員会に参加をしながら、目白大学の教員として社会貢献を行っている。</p> <p>(2) 今後の課題 ○毎年課題として掲げているが、学科として現場との連携や共同研究などが積極的に進めることができると考える。しかし夏休みを中心に実習訪問などの業務があるため、時間的余裕がないのが現状である。このような課題をどのように解決していくか議論することから始めることが先決であろう。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項 ○下記に課題として記述することとする。</p> <p>(2) 今後の課題 ○学科としては、一昨年10周年の記念行事を開催したが、学科開設以来の教員が、今後5年間で5人退職することが予定されている。一方、福祉関係の諸大学との競争は激化しており、人間福祉学科としてこの5年間の間にどのような改革を進めていくべきかについて、5月からプロジェクトチームを設置して検討していく。同時に、入試に関してはオープンキャンパスなどの機会をどのように活用してアピールしていくのか、学科会議での議論の時間を取り4月から5月で基本方針を定め、これまで以上に定員の確保に学科一丸となって動くことを共通認識としていく。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項 ○新カリキュラムが2年目となって、旧カリキュラムとの移行措置で学生に不利の生じないように検討を行っている。</p> <p>(2) 今後の課題 ○学科としての現在の課題は、入学者の確保であり、すでに述べてきたがオープンキャンパスでの対応について、入試、広報との関係を密にしながら、昨年とは異なる規格やプログラムを検討しており、具体的な成果が生まれる内容としたい。 ○1年生に対して、学生への個別面談などを通して、できるだけ大学生活のスタートに躓かないような対応を行い、退学者の減少につながるようにしていく。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	子ども学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①カリキュラム検討委員会（平成24年度設置）により、平成28年度実施のカリキュラム改訂が教授会にて承認された。カリキュラム改定届け出を行う。</p> <p>②就職率は98.54%である。社会の要求に応えるべき養成校としての使命を自覚し、今後もこの成果を継続させる。</p> <p>③公務員試験対策講座を教員の厚意により実施している。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①理論と実践に強い保育士・幼稚園教諭・施設職員の育成を目指し、学際的な教員の連携が望まれる。</p> <p>②公務員試験対策講座を学科内で設けているが、受講者が最後まで続かないことが課題である。</p> <p>③児童教育学科のと共用ピアノ練習室の適切な使用を徹底することが両学科の課題である。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成26年度の学科所属教員による科研費採択実績が新規採択1件あり今年度は5件（前年度4件）、特別研究費については、今年度1件増で4件となる。</p> <p>②「彩の国ビジネスアリーナ2014産学連携フェア」の産学連携イベントに、学科所属教員が研究成果を展示した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①若手研究者による科学研究費申請の奨励を続ける。</p> <p>②学科内での特別研究費対象の研究を引き続き奨励する</p> <p>③養成校での産学連携は難しいが保健関係での研究にそれに該当する研究がありさらに奨励する。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①保育士・幼稚園教諭の養成校であることから、常に社会的マナー（TPO）の指導を各教員が実施している。</p> <p>②学生の自主的な活動である子ども学科特別行事（まみむめめじろ かきくけこども）を、平成26年度も12月に実施した。学生の問題解決能力などを養成できる重要な行事として定着していることは高く評価できる。</p> <p>③教員の自発的協力を得て、4号館前で挨拶運動を実施してきたところ、学生への教育的効果が認められている。</p> <p>④学生指導については、実習支援室はじめ学科会議で学生についての情報を共有している。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①社会的マナー（TPO）の指導、また学科特別行事・教科における学科内行事への教員間の温度差を解消して積極的な参加をどのように促すかが課題である。</p> <p>②欠席の多い学生の個人的な指導の充実をいかにするかが継続的な課題となっている。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①教員はそれぞれの専門分野において、各地域で講演会、相談など社会貢献をしている。</p> <p>②8月学科主催の公開講座「子ども・子育て支援制度に関する最新情報～幼保連携型認定子ども園教育・保育要領を中心に～」を実施した。</p> <p>③12月の学科特別行事「まみむめめじろかきくけこども」は、今年度も近隣の保育所、幼稚園、施設の子どもたち大勢の参加があり、高い評価を得た。</p> <p>④エコプロダクツ2014「自然環境に関する取り組み～芋蔓によるクリスマスリース制作～」に子ども学科学生の作品を出展した。</p> <p>⑤大宮アルディージャのオフィシャルエコパートナーとして学科の学生が参加、保育ルームで親子への保育支援を実施している。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①近隣の保育園・幼稚園への社会的貢献が大きい学科特別行事は、教科ではないため、実施時期が課題となっている。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学科会議の定例化、教員出勤時の押印、挨拶運動への協力などは、今年度も比較的協力が得られた。</p> <p>②学科内の公開講座委員会とFD委員会のコラボ企画として「子ども・子育て支援制度の概要」にて勉強会を実施した。</p> <p>③学科内FD研修会では学生への挨拶運動についての意見交換を行い、挨拶運動に関する意義の共有ができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①非常勤講師の多い学科なので、4月はじめに非常勤講師の方々から目白大学の教育環境、学生の状況についてできる限り話を聞いて、今後の学科運営に活かしたい。</p> <p>③平成27年度も新たな教員を迎える（講師2名、助教2名の計4名）、学科として充実した体制を整えることを目指したい。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①子ども学科の将来に向けての発展と強化のために、特色ある学科作りの検討は必至である。他大学の養成校との差別化を図るためにも、現在実施している「子どもと自然」の教科は今後も活発な指導体制で臨むため、27年度より専門家を任用した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①「子どもと自然」は小動物や草花の飼育栽培等他大学に類を見ないカリキュラムであり、他大学の養成校との差別化を図るためにも、限られた施設設備での有効的な教育環境確保と適切な飼育施設の確保が課題である。</p> <p>②特色ある学科作りのもう一つの学科特別行事「まみむめめじろかきくけこども」では、例年記念館を使用しているが、実施時期に多くの大学行事や高校行事、エクステンション行事、他との重複が避けられず日程の決定が課題である。</p> <p>③平成28年度からの新カリキュラム導入にむけて、学術書出版助成による教本的な子ども学（仮称）の出版を計画している。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	児童教育学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①21世紀型能力の伸張を目指した授業を意図的に実施した。具体的には課題探求型授業、参加型授業、グループ学習等を日常的に行ってきた。</p> <p>②現場性と身体性を重視した教育活動の日常化に努めた。具体的には観察実習、教育実習など体験型の学習を重視した。</p> <p>③社会貢献力の育成を目指した教育活動を重視した。ボランティア活動は全員が参加し、その成果を報告しあっている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学生の将来の進路と本学科の教育活動との連携について、具体策を検討する。</p> <p>②人間学部としての共通認識を深め、他学科の教育上の特質を取り入れるようにする。</p> <p>③学生の視野を広めるため、フィールドワークや現地調査の機会を増加させる。</p> <p>④学生の基礎的学力の向上を目指した具体的な取組みを検討する。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①児童教育学科の研究文献の刊行をすすめている。全専任教職員、非常勤講師、学生代表の論考を掲載し、児童教育学科の教育活動や歩みを集約している。本学研究文献刊行費の助成を受けて発刊の予定である。</p> <p>②各教職員の特性を活かした情報交換に努めた。学科会等で研究領域についての報告・発表の機会を設けた。</p> <p>③日本学校教育学会の目白大学大会開催に向けて研究論文の作成、自由研究発表の準備等を進めている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①所属教職員の専門分野における研究を報告しあう機会を増加する。</p> <p>②所属教職員の知見を広め、研究を深めるため、学会、研究会への参加を奨励する。</p> <p>③科学研究費等の助成への申請を更に増加させる。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学生一人一人に対応した指導を心がけてきた。具体的には個人面談および問題ある学生への個別指導を日常的に行った。</p> <p>②学生の主体的活動力を高める教育活動を実施した。学習発表会、期末集会、山の手ウォークラリーなどはその例である。</p> <p>③教職員の同僚性による学生指導を進めてきた</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①犯罪行為、麻薬等への危機意識の低い学生達の認識を深め、危機を回避するための指導を強める。</p> <p>②卒業後の進路の多様化にともなう進路指導の改革を進める。</p> <p>③教職員と学生との交流機会をさらに確保する。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①文科省委員会への参加</p> <p>②地方公共団体活動への参加</p> <p>③小・中・高等学校の教育活動への参加</p> <p>④地域のボランティア活動への参加</p> <p>⑤高等教育機関の紀要への掲載</p> <p>上記の多様な教育機関の活動への参加、支援を行ってきた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①教育以外の社会貢献を行う機会を拡大する。</p> <p>②一時的な交流、貢献でなく、通年的な貢献を目指す。</p> <p>③社会貢献活動・地域貢献活動を学生の教育と結び付け、充実、強化していく。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①教職員の学科運営への共通理解を深めるため、月2回の学科会を開催した。また、年度末には8時間に及ぶ年度末反省会を行った。</p> <p>さらに、3月下旬、宿泊研修会を実施し、次年度の教育方針、学生指導、教科指導、学科の運営等について全教職員で協議し、方向を確認した。</p> <p>②大学および学科での各教職員の役割分担を明確にした。役割分担組織図を作成した。</p> <p>③学科会等の論議の記録をいつも明文化し、全教職員が共通理解できるようにした。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学生の行動様式、思考様式の多様化に対応し、学科としての教育指導を進めるためには全教職員の協働が欠かせない。よって、学科会等共通理解を深める機会を一層重視する。</p> <p>②各教職員の研究成果の報告機会を積極的に設ける。このことにより、研究者同士としての仲間意識を高め、各自の研究の進展に資する。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学科行事の充実の本学科の特質である。各行事は従前教師主導によって行われていたが、26年度からは学生が主体的に推進するようになってきた。この方向をさらに進めたい。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①教職科目の担当者は児童教育学科の学生だけではなく、他学科の学生と関わりがある。所属学科の教員と連携した学生指導が必要な場合があり、柔軟な連携体制を構築することが必要である。</p>			

(1) 特筆すべき事項

<教育>

- ①カリキュラムに関しては、社会情報学科では順次制による新カリキュラムをスタートさせ、また20社以上の企業の講師による実践的なマーケティングを学ばせた。地域社会学科では講義・ゼミ・フィールドワークの連携を実践し、メディア表現学科では「インターンシップの会」を継承実践するなど、各学科共に学生の興味や関心を引き出す授業が実践された。
- ②3学科では、それぞれの学科の特徴を生かす形でフォローアップセミナーが実施され、入学前教育の改善が効果的になされた。
- ③卒業研究は3学科の必修であり、それぞれの学科で学生の動機を高めるための工夫がなされた。例えば「卒業研究執筆要領」を4月当初に4年生に配布し、研究計画・論文作成・研究発表などの要領と年次計画を明示することにより論文の質的な向上と提出状況が改善された。また、3学科共に、ゼミでの活動報告書等を発刊することで学生の学習意欲の向上に努めている。

<研究>

- ①論文数(学会誌、紀要、その他)の掲載件数は、各学科共に平均すると教員一人当たり1編以上に相当しており、また学会発表も概ね同様であり、例年同様、研究活動に積極的に取り組んだ。
- ②科学研究費申請に関して、社会学部の平成27年度教員申請率は学科間のばらつきはあるが約30%(平成26年度の申請率16%)であり、また新規採択3件、継続採択5件あることなどから外部資金獲得への意欲が向上している。
- ③社会情報学科では全教員の執筆による『社会デザインへのアプローチ』を刊行し、地域社会学科では「まちづくり学習プログラム」の試験的な導入と運用を実践するなど、学科の共同研究が萌芽している。

<学生指導>

- ①3学科共に、問題学生(出席不良、成績不振など)の早期発見に努め、担当教員と学生本人や保護者への連絡などが密になされ、留年生の減少や中途退学者対策が効果的に表れた。社会情報学科では学科長が1年生全員と面談を行い、学生生活の指導や学生の不安などの低減に寄与した。
- ②就職内定率は85~97%であり、学科によって多少の差異がみられた。社会情報学科では「就活相談会」の実施や「オススメ求人リスト」の配布等により約95%の内定率となり、地域社会学科では教員等の努力により97%(学内トップ)の内定率を達成した。
- ③資格取得に関しては各学科の様々な努力により成果を上げた。地域社会学科では教員免許や学芸員資格等の取得を目指す学生に対してきめ細かな事前指導がなされ、社会情報学科では受験指導と集中講義を行いフードスペシャリスト関連資格取得者15名、秘書検定・販売士資格取得者22名などの実績を上げた。
- ④地域社会学科では地域イベントやボランティア活動への参加を促し、メディア表現学科ではフリーペーパーの制作等の奨励により学生の主体性と積極的行動が促進された。

<社会貢献>

- ①3学科共に学会・協会役員、公共団体委員等を担う教員が多数おり、特に地域社会学科は19件であり、指導的な立場での社会貢献がなされた。
- ②地域連携事業は各学科6~7件で、地域への貢献が積極的になされた。地域社会学科では「第7回地域フォーラム」で仙台市長などの特別講演が行われ震災復興を再考する機会が提供された。
- ③その他の社会貢献事業は各学科で内外の事業3~5件に関与しており、異議深い貢献がなされた。

<組織マネジメント>

- ①社会学部の非常勤講師と専任教員との教育懇談会(平成26年度幹事:社会情報学科)が実施され、学生に関する情報や教育に関する抱負などの意見交換がなされ教員相互の理解に役立った。
- ②社会情報学科では全教員参加のFD研修会合宿(一泊二日)が行われたり、地域社会学科では『地域社会学科年報第6号』が刊行されたりして、教員間の密度の高い情報交換がなされた。メディア表現学科では入学者対策として高校に向けた学科独自の広報に努めた。それぞれの学科の特性を生かしたマネジメントが実施された。
- ③フレッシュマンセミナーは学部の全体行事と各学科の行事が適切に実施され、学生の学習意欲の向上と学生相互及び教員と学生との交流が効果的に図られた。

<その他>

- ①メディア表現学科では『目白大学新聞』の発刊や『めじてれば』の制作・公開、地域社会学科ではパンフレット『地域密着で学ぶ~社会で生き抜く力』の作成等がなされ、学生及び保護者と学科との連携に役立った。

(2) 今後の課題

- ①今後の課題については、全般的に昨年度の課題が達成されていない状況があり、経年的な課題が山積している。
- ②教育面では、入り口の部分で初年次教育と中退予防を考慮した教員と学生との信頼関係作りが必要であり、学部単位で実施されるフォローアップセミナーの改善と工夫が今後の課題である。出口の部分では4年間の集大成である卒業研究(卒業論文作成)の質的向上を図り、それを就活に結び付けるような対策が課題である。
- ③研究面では、研究論文の投稿件数や発表件数、科学研究費の申請率等は順調に増加しているので、こうした動向を促進する教員相互の刺激や学科の雰囲気作りが今後の課題である。
- ④学生指導面では、web上で出欠や成績が確認でき、大学生活への不適応学生の早期発見が容易になっているので、こうした情報を的確に利用するシステムを確立して、きめ細かな学生指導に役立てる必要がある。就活面ではキャリアカウンセラーの積極的な活用とゼミ指導の在り方が今後の課題である。
- ⑤社会貢献面では、それぞれの学科の特色を生かした貢献がなされているが、どのような貢献ができるのかを外に発信する必要がある。また、それぞれの社会貢献事業をサポートする学科内、教員間の理解が今後の課題である。
- ⑥組織マネジメント面では、学部長・学科長間の意思疎通の向上、学部教授会の活性化、学科を超えた教員間の相互交流の促進、学部の独自性の発信などが今後の課題である。非常勤講師と専任教員との教育懇談会、FD研修会、講演会などを通して教育及び研究の質向上を目指したい。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	社会情報学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本年度入学者より新カリキュラムをスタートさせた。AP・CP・DP、順次制に即したカリキュラムによる教育を目指している。 ②卒業研究の質的向上を図るべく、中間審査会・最終審査会、論文提出等について合否判定・再試験等を厳格に実施した。 ③ベーシックセミナー2年目を迎え、大学全体の方針に即した科目展開を図った。 ④現代の社会1(ファッションブランド戦略論)、フードブランド戦略論は企業22社の講師を招き、企業の実践的マーケティングを学ぶ機会を展開した。 ⑤企業の講師を招いた社会学部講演会を1/21に実施し、118名の学生が参加した。幹事学科として講師手配・進行等の役目を担った。 ⑥フォローアップセミナーを開催し、大学での学びや新聞の読み方を指導し、一般入試過去問の解答と新聞記事要約を他日に提出させ、評価した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①本年度から導入した新カリキュラムの円滑な運用と教育効果の検証を図り、学士力向上に資する教育展開の充実を図る。 ②「卒業研究」の更なる質的向上と公正な評価方法(主査・副査による論文査読等)を検討する。就活時期の変化による卒論提出時期等の適正化を図る。 ③社会的評価を受ける教育成果の創出を検討する。 			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①科研費の給付を受けた教員は、新規採択2件、継続採択2件であった。 ②学科誌「ソシオ情報シリーズ」第14号『社会デザインへのアプローチ』を刊行し、10名の学科教員が寄稿した。 ③社会問題や社会調査の分析と提言、また文献資料の解説や情報機器を使って現地調査に取り組む教員が多く見受けられた。 ④桐和祭社情講演会「ファッションビジネスから若い消費者へー批判と期待に込めるー」(公益社団法人消費者関連専門家会議 ACAP研究所主任研究員・松岡信行氏)を開催した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教員にとっての十分な研究活動(学会参加・論文作成)の実現を期したい。 ②対外的研究資金の更なる獲得を目指し、研究活動の充実を期したい。 ③教育活動に時間が割かれる現状があるが、効率的な学科運営を図り、研究活動に従事する時間等の確保を目指したい。 			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①問題のある学生の学科内での情報の共有により、適切な指導ができた。次年度の留年生が2名と僅少となった。 ②成績・出席不良学生には、クラス・ゼミ担任のコメントつき成績表を保護者宛に送付した。 ③3年次生は秋学期後半より、4年次生は1年間を通じて社情就活相談会を週1回実施し、「内定がとれそうなオススメ求人リスト」を週1回発行した。 ④内定率 90.4%であった。キャリアカウンセラーとの面談を学生に勧め、保護者会で保護者向け就活相談会を開催しゼミ担当者が保護者面談を行った。 ⑤諸資格取得希望者の受験指導と集中講座を実施した。秘書検定2級16名、販売士2級6名、フードスペシャリスト検定9名、専門フードスペシャリスト検定6名が合格した。 ⑥1年次生全員対象の学科長面談を春学期に実施し、初年次の円滑な大学生活への誘導を図り、学生の不安等の解消に資した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①可能な限り、個別面談等の機会を創出し、学生の主体的な学習意欲の向上を喚起させる指導を推進したい。 ②TOP UP教育の可能性を検討し、人材育成の更なる向上を目指す。 ③内定率は前年比で1.6ポイント低下した。全盛期の90%後半台に戻すべく就活指導を強化したい。早期内定の策を講じることも検討したい。 			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地方自治体等の公共性がある団体等に関わるワークショップ参画や主催する貢献が試みられた。 ②学会役員等を引き受け、社会貢献事業に携わる教員が見受けられた。 ③エクステンションセンター等の公開講座を担当する教員が見受けられた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ソーシャルデザインユニット等の学びに直結したボランティア活動への参画等、学生を巻き込んだ社会貢献の場を増やしていきたい。 ②社会に提言していく場として、社会学部研究所(仮称)の設立構想に着手したが、これを実現の可否を継続検討したい。 ③学生の教育効果とも連動した、社会的な学習成果を社会貢献する視点から検討したい。 			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学科FD研修会は3回ともほぼ全員が参加した。特にFD合宿研修会1泊2日(9/22・23)を実施し、学生確保策や授業運営等について討議をおこなった。 ②学科内の共通課題認識、課題定期を得るために、「ソシオシリーズ」刊行を続行した。 ③オープンキャンパスのための学科PR内容を刷新した。社会心理実験による受験生参加型のPR展開を試みた。 ④第3回社会学部非常勤講師との教育懇談会を開催し、幹事学科としての役目を果たした。非常勤講師の中から中村正子氏が講演「ゴミ問題を考える」を実施した。学科教員は全員、学科所属の非常勤講師は懇談会に4名、講演会に3名出席した。 ⑤新カリキュラム検討チームを学科内に設置し、H26年度からの円滑な運営を検討した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①FD研修については、学科内の取り組みを活性化させることを目指したい。 ②教授会等、学部中心の大学運営の改革に連動した学科の組織運営を心がけ、学部での活動にも寄与することを検討したい。 			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平成27年度入試において、入学定員120名のところ入学手続者が108名と定員充足に関して課題が生じた。 ②2名の教員が定年退職を迎えるにあたり、1/28に最終講義を企画・実施し盛況であった。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平成28年度入試に向けて入学定員確保策を展開し、特にオープンキャンパス等の学科広報に全力を注ぎたい。 ②学科の全般的な活動において、大学全体の方針や運営に則しつつ、効率化・適正化を検証し、機動的且つ柔軟な学科運営を目指したい。 ③学科教員の年齢構成がやや高い傾向が突くが、定年教員等の後任人事等において、適正な構成を目指したい。 ④学科の全般的な運営について、より透明性が高く全構成員が課題を共有しながら動ける体制を促進したい。 			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	メディア表現学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 少人数制(学生10人に対し教師1人)でのベーシックセミナーを実施、引き続き、きめ細かに新入生の教育に当たった。 ② 学科主催で学生向けシンポジウム『メディアとアートの現在と未来』を外部パネリストを招聘し開催した。ネット新聞に報じられ話題に。 ③ インターシップの会を継承実施するとともに、昨年同様成果報告書をまとめ、関係者に送付した。 ④ 昨年に続き「卒業研究審査会」、「卒業研究再審査会」、「卒業研究優秀者発表会」を開催、卒業論文・制作の質的向上に努めた。 ⑤ 昨年同様、秋学期に学科教員全員による「メディア表現概論」を設置、1年生必修科目としてメディアの多角的な理解を促した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 昨年同様、各科目間の連携を強化し、学習効果を高める仕組み作りをする必要がある。 ② 昨年に引き続き、学生たちに社会学的学術論文の書き方を教え、卒論の質を高めていくことが必須である。 			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 書籍発行など、学科教員の研究・執筆活動が盛んであった。 ② 学科教員による学会などでの口頭発表が多く行われた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① メディア表現学科をメディア研究の拠点にしていくこと。 ② 研究・教育以外の業務量が多く、研究時間を十分に確保できないでいるのが現状で、以前にも増して「多忙感」を抱く教員が多い。これをどうにかして改善していく必要がある。 			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教員が保護者に連携して、登校低迷学生と保護者との特別面談を設け、学生の現状について保護者の理解と協力を促した。 ② AO入試と推薦入試合格者を集め、フォローアップセミナーを開催、学生の学習意欲向上に努めた。 ③ 1泊2日の新ベーシックセミナーを横浜で開催、学生たちにフィールドワークを行わせ、iPadを利用して自らの発見をプレゼンさせた。 ④ ゼミでフリーペーパーを制作し、「日本タウン誌・フリーペーパー大賞2014」に応募した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 就職内定率が約86%に達しているが、さらに内定率を上げるよう努めたい。 ② 登校低迷学生に迅速に対応し、退学・休学者の減少に努力したい。 ③ 特別な障害を持っている学生への適切な対応を考え、実施していく。 			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 電子メディアや情報教育の導入に関し、貢献した。 ② 地域の社会福祉法人の役員を務め、地域の福祉向上に一定の貢献をした。 ③ 外部組織からの依頼により専門地域のアドバイスや講演をし、地域・教育機関の教育的・文化的環境作りに寄与した。 ④ 落合南長崎駅東側にある「トキワ荘通り協働プロジェクト」に参加した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① メディアを専門とする学科として、地域のメディア促進に貢献していきたい。 ② 学生のボランティア活動を支援し、できればインターンシップ同様、ある条件をクリアした場合は単位を認定するなどしていきたい。 			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「学びフェスタ」で学科の全教員が模擬授業を行い、学科の広報に貢献した。 ② 学科の健全存続のため、入学者が予想される高校に向けた学科独自広報に努め、その結果、志願者増に繋がった。 ③ 学部での連携業務として非常勤講師の会を開催した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学部・学科の独自の広報予算が削減されたため、パンフや小冊子をつくるのが困難になったが、何らかの対応策を立てる必要があると考える。 ② 学生数だけでなく、質の高い学生の確保に努めていきたい。やはり質の高い学生を確保し、教育する課程でさらに質を高めたい。そのことが社会的評価に繋がり、引いては入学者増にも関係してくるだろう。 			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「目白大学新聞」を2回発行、保護者に発送した。昨年度から発行得母体が社会学部となり、中期計画目標の一環となった。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「目白大学新聞」を今後とも大学をアピールするツールとして有効活用していきたい。また、地域連携のツールとしても、同新聞とフリーペーパーをさらに進化させていきたい。 			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	地域社会学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①フィールドワークの一環として、現場に赴き自らの目で見、聞いて、調べる方法と技術を習得し、現代の社会に潜む問題や課題に取り組むと同時に、行動力や主体性の涵養とコミュニケーション力の向上を目指す教育指導が行われた。</p> <p>②本学科の特徴である授業内容の多種・多様性を十分に活かしながら、講義やゼミ、フィールドワークにおいて各教員が自らの専門知識を基に、学生の興味・関心を引き出すような多彩な授業を行った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①本学科の教育課程において、「国際」「観光」「地域」という言葉をキーワードして、錯綜する現代社会の中で何よりも「社会を生き抜く力」を身に付けることができるよう教育指導していきたい。</p> <p>②本学を問わず、日本の大学を少なからず悩ませている授業時の「居眠り」やレポート作成時の「コピー&ペースト」といった行為に関し、とりわけ後者の「不正行為」を極力やめさせる方向で対応していきたい。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①埼玉県のある自治体との提携・協働のもと、地域活性化のための「まちづくり学習プログラム」が研究開発され、試験的に導入・運用された。</p> <p>②埼玉県のある自治体との提携・協働のもと、望ましいとされる「子どもの居場所」に関する調査研究が行われた。</p> <p>③個人の研究業績の積み重ねが見られたのは言うまでもなく、今年度は学術論文という形で発表できなかったとしても、資料収集や現地調査、関連文献の読解等において、それぞれの研究がさらに進んだようである。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①近年、増えることはあっても減ることはほとんどなさそうな学内業務や学生対応により、教員の研究活動が時間的に徐々に制約を受けている。そのような中で断続的ではなく、気持ちを「論文モード」に切り替え、一定のまとまった時間を注ぎ込んで集中して研究に向き合えるような環境を整えることが望まれている。</p> <p>②本学における「サバティカル」の導入と実施に多大の期待が掛けられている。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①各種教員免許の取得を目指す教職課程履修者に対して、単位取得要件や教育実習等について事前指導がきめ細かく行われた。</p> <p>②博物館学芸員の資格取得を目指す学生に対して、目白研心中・高主催の「遺跡フェスタ」にボランティアとして参加するよう指導した。</p> <p>③毎年恒例の落合・中井地域のイベント「染めの小道」（平成27年2月27日～3月1日開催）に地域社会学科の学生が参加するよう指導した。</p> <p>④「新宿・あきる野」自然体験ツアーにボランティアとしての参加を促した。</p> <p>⑤埼玉県戸田市と東京都新宿区主催の各インターンシップへの参加を促した。</p> <p>⑥世界遺産検定とeco検定の受検に向けて指導を行った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○現在の学業や将来の進路に関してのみならず、アルバイトや友人関係、メンタルな面で何らかの悩みを抱える学生へのアドバイスと教育指導が求められているようである。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①地域社会学科主催「第7回 地域フォーラム：震災復興に向けた地域の力・文化の力—4年目を迎える震災復興で今何が必要なのか—」（平成27年1月24日）において、講演者に仙台市長と大船渡津波伝承館館長をお迎えし、「仙台市における復興事業と文化の力」及び「映像から見る大船渡の津波被害と伝承館の役割」というテーマでそれぞれ特別講演を行っていただいた。</p> <p>②落合・中井地域のイベント「染めの小道」に地域社会学科の学生が参加し、同イベントのお手伝いをし大学周辺の地域社会に貢献した。</p> <p>③地域社会学科と戸田市との協力・連携のもと、学科の専門科目の一つとして戸田市寄附講座「地域政策の開発」が秋学期に開講され、戸田市の職員の方々を講師としてお招きし、オムニバス形式で地方行政と実務について授業を担当していただいた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①地域社会学科主催の「地域フォーラム」には、さらにより多くの参加者に足を運んでいただけるようこのフォーラムを盛り上げたい。</p> <p>②戸田市寄附講座「地域政策の開発」に関しては、講師の方々の実務経験や学生時代の体験、趣味その他をお話いただきさらに学生の興味・関心を引くような充実した授業になるようサポートしていきたい。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①本学科における1年間の各ゼミの様々な活動やフィールドワーク等を中心にした報告書として、ゼミ生たちの活動の様子をうかがわせる写真も添えて『地域社会学科年報 第6号』を刊行した。</p> <p>②「保護者会」を2回（平成26年7月・平成27年1月）開催し、学科の活動報告や就職に関する説明、個別相談を実施した。</p> <p>③今年度もフレッシュマンセミナー（平成26年5月22日～23日）において、先輩リーダー学生の手導のもと、フィールドワークとして横浜市周辺の巡検とその報告が行われ、新入生相互の親睦がより一層深められた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①大学全体で何かあると各種ワーキンググループが次々と立ち上げられる中、教員それぞれの研究時間を少しでもより多く確保できるよう、役割分担と負担の平準化・軽減ということも意識したい。</p> <p>②第3回社会学部合同非常勤講師懇談会が平成26年7月2日に開催されたが、本学科所属の非常勤講師の先生方の出席はきわめて少なかった。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①埼玉県戸田市と東京都西東京市に卒業生2名が、それぞれ上級職として正式採用された。</p> <p>②オープンキャンパス時に開かれたブース「地域カフェ」及び、配布されたパンフレット「地域密着で学ぶ『社会で生き抜く力』」は、とても好評であった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○受験者数が減少する「2018年問題」を間近に控え、依然として厳しい状況にある本学科の定員確保に向けて、教員の意識改革をも含めた大胆かつ抜本的な改革が求められているようである。</p>			

(1) 特筆すべき事項

- ① 小売業・流通・物流の教員を採用した。このことによって、従来手薄であった小売業の分野をカバーできるようになった。
- ② 資格取得学生に対する報奨金制度を発足させた。これによって、学生の資格取得のモチベーションアップにつなげることができるようになった。

(2) 今後の課題

- 経営学部において、核となる分野である組織論と戦略論の教員が欠員となっている。これを埋めることが喫緊の課題である。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	経営学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①新カリキュラムの学科会議における決定：学科会議において、コース制を廃止し、経営学・会計学・マーケティングの各「科目群」を中心においたカリキュラムを平成28年度より実施することを決定した。 ②ベーシックセミナー開始2年目にして1年目の問題点「欠席率の高さ」を克服するため、欠席レポートを課すことを実施し、25年度において全学科中最下位だったベーシックセミナー1の欠席率を全学の平均値まで戻した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2002年の開学部当時に比べて、退学率は減少している（対入学者数の比率で約33%→約15%）が、まだまだ多い数値であることが問題である。 ②アクティブラーニングの導入 ③学生の授業満足度の向上 ④ボトムアップとトップアップを両立する授業方法について 			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若手教員（複数）による科研費へのチャレンジ：残念ながら科研費獲得は現在0人であるが、実践的研究課題に挑戦してる教員が毎年チャレンジしている。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科研費の獲得：経営学科の研究内容から、研究費が必要場合は、アンケート調査か企業の現地調査、つまり実践的な研究に限定されてしまう。そのため、文献をもとに研究を行っている教員にとって科研費を申請するような研究内容を新たに開拓することは容易なことではない。 			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①資格取得報奨金制度の開始：本年度より資格取得報奨金制度が決定かつ運用が開始され、予算約35万円の大半を消化することができた。特に、制度が開始されたことにより、学生の資格に対する意欲が増加した。 ②学生にかかわる大きなトラブルは報告されなかった。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①就職指導の強化：景気の好転により、就職状況は改善されているが、相変わらず就活を忌避する学生が散見される。それらの学生に対応する対応が課題となる。 ②学生動向に関する情報の共有化：ベーシックセミナー2年目が終了し、教員同士の会話に1、2年生の名前があがることが以前に比べ増えている。これまで以上に、学生に関する情報の共有化が促進されることが課題となる。 			
社会貢献	<p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域振興・研究支援センターの立ち上げにともない、経営学科として同センターの活動に協力していく。 			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学部長ならびに学科長の交代：学部長学科長のみならず主要委員もすべて交代したが、これまでの課題であった学部長・学科長間の意思疎通については、初年度にかかわらず問題なく推移した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現在教員の定員数を満たしていないために、仕事の多い委員が連続して各教員にまわってくる状況がある。このことが、問題を引き起こす遠因ともなっており、教員の補充が早急の課題となっている。 若手教員に過大な負担をかけない方針はこれからも続けていきたい。 			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成27年度は、定員120名に対し、150名の入学者があり、定員確保できた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経営学部は2002年の開学部以来、定員を下回ったことは一度も無いが、これからの数年はまさに正念場となってくるであろう。入学者確保が最大の課題となる。 			

(1) 特筆すべき事項

【教育】

- ①4月に外国語学部FD委員会を設置し、7月9日と9月17日の計2回、日本学術会議の「回答」及び「報告」を基に、言語・文化分野の達成すべき学修成果の在り方について検討を行った（参加者は各々31名と20名）。
- ②海外の大学との交流協定に関しては、北京外国語大学との交流協定を新規に締結した。また、7月の教授会において、韓国国際交流財団「韓国語補助講師派遣事業」に参加することを決定した。さらに、韓国語学科では、同学科と中国延邊大学及び中央民族大学との学術交流協定の締結に向け話し合いを進めており、また英米語学科でも、Power Englishに関わるアメリカの提携校としてカリフォルニア州立大学チコ校を新たに加える方向で交渉を進めている。
- ③交換留学制度に基づく学生の海外派遣（韓国語学科）
- ④1学期間のセメスター留学(Power English)の実施（英米語学科）
- ⑤JALPとの連携による日本語教育実習の実施と実習報告書の作成（日本語・日本語教育学科）
- ⑥学部長裁量経費による各種検定試験の受験料補助などを行った。

【研究】

特筆すべき活動事例としては以下の通りである。

- ①新たなPh. D. 取得者2名の出現（韓国語学科の金 河守教授と英米語学科の大矢政徳准教授）
- ②科学研究費補助金の新規取得者3名（計4件、いずれも研究代表者）の出現（英米語学科の時本真吾教授（2件）と大矢政徳准教授、韓国語学科の金香淑准教授）
- ③国際的な学会誌等への論文掲載（英米語学科）
- ④国際的な学会等での研究発表（英米語学科、韓国語学科、日本語・日本語教育学科）
- ⑤学部ホームページ開設案の承認（2月教授会、28年度開設予定）

【学生指導】

○学習意欲の喪失や生活上の困難などの問題を抱えた学生に対して、各学科で学科長を中心に、ベーシックセミナー担当教員、クラス担任、ゼミ担当教員等が相互に連携しながらきめ細かい支援を行った。

【社会貢献】

特筆すべき活動事例としては以下の通りである。

- ①放送大学客員教授
- ②神田外語キャリアカレッジ顧問
- ③NPO「中国山地の人々と交流する会」理事
- ④「松下幸之助国際スカラシップフォーラム」実行委員北京外国語大学等での招聘講演者

【組織マネジメント】

- ①「目白大学教授会規則」第8条の規定に基づき、4月の教授会で「外国語学部教授会の運営に関する細目」を決定し、この細目に基づいた民主的な学部運営を行った。
- ②4月に外国語学部人事委員会を設置し、計7回開催した。公正で透明な人事を行うことを目的に設置した本人事委員会は、軌道に乗りつつあると言ってよい。

(2) 今後の課題

【教育】

- ①平成27年度中に言語・文化分野の達成すべき学修成果の内容について結論を得て、かつこの目標の達成に向けた教育課程の在り方について検討を開始する。
- ②FD活動がルーチン・ワークと化さないように、企画の内容を更新し、具体的な改善に結びつける。

【研究】

- ①学科の枠を超えた学際的な研究の可能性について検討する
- ②学部ホームページ開設の準備をする。

【学生指導】

- ①問題を抱えた学生に対する組織的な指導体制の充実・強化。
- ②就職支援体制の充実・強化。

【組織マネジメント】

○中国語学科に加え、平成26年度初めて日本語・日本語教育学科が定員を大幅に割ってしまった。外国語学部として、学生の質を保ちつつ、定員充足のための具体的方策を早急に検討する必要がある。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	英米語学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①1学期間のセメスター留学（Power English）の対象校を増やすべく、米カリフォルニア州立大学、マレーシア・プトラ大学を新たに加えることとなった。</p> <p>②ビジネスコミュニケーション関連の授業において、現役社会人のゲストスピーカーを招聘し、学生に実社会を知る機会を提供した。</p> <p>③学部長裁量経費を有効活用し、成績優秀者に対し、英語関連の検定試験（TOEIC、英検）の受験料補助を行った。</p> <p>④3年次の専門セミナー振り分けにおいて、希望者の多いゼミに関しては、公平性・透明性を確保すべく、GPAを基準に選抜を行うことにした。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学位授与の方針（育成すべき人材像、獲得すべき知識・能力等の付加価値、達成すべき教育目標など）を明確化する必要がある。</p> <p>②4年次のTOEIC団体受験実施により、4年間の学習成果を把握しプログラムに活かす必要がある。</p> <p>③1・2年次から就活に係わる意識を高め、就職率を向上させるよう指導していく必要がある。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①Ph. D. の学位を取得した教員が1名いる。</p> <p>②国際学会誌への論文掲載が2件、及び国際学会での研究発表も3件あった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①科学研究費補助金への申請率を上げる必要がある。</p> <p>②全国レベルの学会誌等への投稿数（掲載数）を増やす必要がある。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①クラス担任制度、ベーシックセミナー、ゼミ指導、コア・プログラム等を通じてきめ細かい指導を実施している。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学科長、クラス担任教員、ベーシックセミナー担当教員、ゼミ指導教員等の緊密な連携による組織的な指導体制を確立する必要がある。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①神田外語キャリアカレッジ顧問、日本青少年文化センター評議委員、日本英語検定協会実用英語技能検定面接委員等を務めた教員がいる。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①教育研究の成果を、高大連携事業、対外向けセミナー開催等を通して、社会に還元していく努力をもっと積極的に行っていく必要がある。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①「英米語学科教員会議の運営に関する内規」を独自に作成し、これに基づいて透明かつ民主的な運営を心がけるようにしている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①透明で公正な人事を行うことを通して、学科教員組織のさらなる質の向上を図っていく必要がある。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①特になし。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①教員側の都合を重視した教育ではなく、学生側の要望や実態に適切に配慮した教育を行っていくように努力する必要がある。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	中国語学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①国家試験である通訳案内士（通訳ガイド）試験受験を学生に督励するべく、新たに学部長裁量費による受験料補助を実施した。</p> <p>②通訳案内士試験受験督励の一環として、授業内で「通訳ガイド実習」を2回実施した（鎌倉・横浜中華街）。</p> <p>③城西大学が主催する「第3回城西大学中国語スピーチコンテスト」で、本学科3年生が最優秀賞（理事長賞）を受賞した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①中国語検定試験および通訳案内士試験の受験率と合格率アップのための指導を強化する必要がある。</p> <p>②卒業研究（卒業論文と卒業制作）の質的向上のための指導を充実させる必要がある。</p> <p>③成績下位学生の学習意欲向上を意識した授業およびクラス運営面の改善に努める必要がある。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学科教員の研究論文掲載は4件であった。</p> <p>②学科教員の既刊単著2点が、電子書籍化された。</p> <p>③「目白大学台湾研修」の研究交流活動の一環として、学科教員が台湾の康寧大学で講演をおこなった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①個々の研究の質的向上をはかるためにも、科学研究費補助金への申請率を上げる必要がある。</p> <p>②所属学科や専門領域の枠を越え、学際的かつ横断的な学部全体の共同研究事業を模索する必要がある。</p> <p>③社会への高い還元性を意識した研究活動を模索する必要がある。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①昨年度に引き続き、卒業生の就職内定率100%を達成した。</p> <p>②2014年度新入生は学習意欲・生活意欲が共に高く、平成27年4月20日現在、中退者は0名である。</p> <p>③学生主体による学科新聞「熊猫通信」を、春・秋学期に1回ずつ制作・発行した。</p> <p>④官民協同留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」に学科学学生3名が応募し、そのうち1名が第1次審査を通過した。（1次審査は約6倍の競争率。当該学生は2次審査で不合格）</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①好調な就職内定率を維持するためにも、きめ細やかな進路指導を継続する必要がある。</p> <p>②学生同士が学科や学年を越えて切磋琢磨する機会を増やすことで、小規模学科のデメリットを克服していく必要がある。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①NPO「中国山地の人々と交流する会」理事として、中国山地住民に対する継続的な教育活動支援をおこなった。</p> <p>②公益法人「松下幸之助記念財団」主催の「松下幸之助国際スカラシップフォーラム」実行委員として、フォーラム登壇者の選考およびブックレット出版事業などにおいて、若手研究者に対する継続的な育成支援をおこなった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学生と教員が共に参加できるような地域ボランティア活動の展開を模索する必要がある。</p> <p>②自身の研究成果や研究者としてのキャリアを、より積極的に社会に還元しようとする姿勢が、教員各人に求められる。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①小規模学科のメリットを活かし、学科教員全員が学科内の情報を共有できる体制を維持している。</p> <p>②人事面では、有期教員の無期雇用への転換や非常勤講師の新規採用が、民主的かつ透明性の高い手続きを経て実施された。</p> <p>③恒常的な定員割れ問題に対処すべく、各種の入学者確保策を立案、実施したが、それら一連の施策（オープンキャンパスの内容改善、都内の高校や中華学校への訪問、公式フェイスブック開設など）について、学科教員全員がきわめて意欲的かつ協力的であった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①今後も学生確保が十分おこなわれない場合、教員定数削減の可能性があり、各教員の教育・校務面の負担がより一層増加することを懸念している。</p> <p>②学生確保問題について、学科教員は強い危機意識をもって各種の対策に取り組んでいるが、学科単独での努力には限界がある。27年度は外国語学部他学科との連携を深めるとともに、入試広報部との情報共有などを強化し、新たな対応策をさらに模索する必要がある。</p>			
その他				

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	韓国語学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学科としては、初年次教育とキャリア教育を連携しながら効果的に強化するために、授業内容や教育方法について議論するために毎週の木曜日に担当者会議を行い、学科の特性を反映するように努めた。 ② 前年度に引き続き、1年生の基礎韓国語の能力を向上させるために教材作成や教育方法などを改善するように努力した。 ③ 卒業予定者の進路指導と就職に関する意識を高めるために校内説明会の広報や参加を進め、就職率アップに全力を尽くした。 ④ 学科の特色である海外交換留学システムで、海外に留学している交換留学生のために現地訪問して生活指導を行い、D.D生には遠隔授業を行った。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学科独自の韓国語(基礎、応用)のテキストを作り、目白大学韓国語学科に相応しい言語教育を行う必要がある。 			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教員がそれぞれの研究分野において積極的な研究発表を行い、その結果を教育現場に適用としていた。 ② 情報発信と大学の知名度をあげるために海外の学術大会に積極的に参加し、研究活動の幅を広めるように尽力してきた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学科の在籍学生の総人数に比べ、授業や学生指導を行える専任教員の数が少ない方である。韓国語学科の特徴であるきめ細かい指導や満足度を高めるためにも教員の定数を増やす必要がある。 			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ベーシックセミナーの担当教員が指導教授になり、個別に学業や生活相談などを通じきめ細かい指導を行っていた。 ② 2年次生はほぼ全員留学中であるが、担任4名と協定校担当の教員が頻りに連絡を取り合い、学習や生活指導を行っていた。 ③ 3年次生と4年次生には、進路指導委員会を中心に就職について積極的な姿勢を持つように、進路指導を行った。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生同志、即ち先輩と後輩との縦関係を通じた学習や生活の助言などができる環境をつくるために、学科のチューターリングシステムを構築する必要がある。 			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 韓国語教育の高大連携について、関東における高等学校韓国語担当教員組織と連携し、活動を行った。 ② 学科が日本韓国語教育学会の事務局を担当し、韓国語教育に関する様々な情報を発信した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教育のみではなく、社会に対する情報発信を積極的に行うべきと認識している。 			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 例年と同じく、学生指導や教育においては教員が率先して動いている。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学科教員が学科の理解を深めるよう、勤めやすい環境を作り、教育と研究のバランスを取れるような仕事場にしなければならないと思う。 			
その他				

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	日本語・日本語教育学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①留学生別科の留学生とのチュートリアル・セッションに、日本語・日本語学科の学生(春学期7名、秋学期12名)が参加し、留学生への日本語学習支援・国際交流を行った。</p> <p>②学科所属の交換留学生(春学期27名、秋学期22名)を対象に、アカデミック・ジャパニーズ習得を目的に日本語学習支援クラスを設け、指導した。</p> <p>③中国学科との合同台湾研修プログラムをさらに充実させるため 教育実習の事前・事後指導の徹底、日本語教育史に関する台湾編を体系的に取り入れるよう努めた。</p> <p>④オーストラリア、ニュージーランドの高校(サマビルハウス、オグルビー高校)に、日本語教師アシスタントを派遣した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①海外提携校等での日本語教育実習なカリキュラム整備・制度化が望まれる。</p> <p>②さらに外部の信頼における日本語教育機関との相互連携協力をする必要がある。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学科教員が著書1件(海外・共著)を刊行した。</p> <p>②学科教員の研究論文は6件であった。</p> <p>③学科教員の研究発表は3件であった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○日本語・日本語教育学科と、日本語教育センターの教員間における共同研究推進が望まれる。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>○日本語・日本語教育学科の基礎教育の一環として、歌舞伎鑑賞講座・文楽鑑賞教室・大相撲鑑賞・演芸鑑賞などを実施し、好評であった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○クラブ活動や学生会組織と関係を持たない学生が多い。大学時代に打ち込んだものを持つことも必要であり、その方途を考えたい。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①渋谷区・新宿区・落合・中井・川崎市などに在住する外国人に対する日本語・日本文化支援を継続して実施しており、感謝されている。</p> <p>②地域交流として落合第三小学校に目白大学交換留学生・JALP生を訪問させ全校あげでの歓迎を受けた。小学校児童も学生もともに満足し、充実した文化交流の場となった。</p> <p>③お茶の水女子大学附属中学校教育研究協議会指導助言講師(参加者：中高大教員・教育委員会指導主事ほか)を勤めた。</p> <p>④ソフトウェア技術者協会教育分科会にて講師を務め、社会人教育、企業研修との共通点について活発な論議がなされた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①地域交流(落合第三小学校児童との交流など)の内容を精査し、さらに内容を充実させて、継続的に国際理解教育を実施する必要がある。</p> <p>②これからは、さらに中高教員や、異業種の人との研究、情報交換も必要な時代だと思われる。</p>			
組織マネジメント	<p>(2) 今後の課題</p> <p>①増加する日本語・日本語教育の大学院生を、修士号取得後に学会で研究発表したり、学会誌に投稿できるよう努力したい。</p> <p>②非常勤講師との情報共有化の機会が必要であろう。</p>			
その他				

(1) 特筆すべき事項

○3学科の運営を尊重しながら、毎月定期的な学科長会議、実習教育委員会、国家試験・就職対策会議等を実施し、学部として共通理解を図り、協同活動を推進した。平成26年度の主な活動は以下の通り。

1. 学部教育について

- ①退学者・休学者防止対策を実施し、退学者は年々減少傾向を示している。2013年度の最新のデータによれば(今後増加する可能性があるが)、理学療法学科2.0%、作業療法学科0.0%、言語聴覚学科2.2%であった。
- ②学生の負担を考慮し、実習施設について関東地域など近隣施設の比重を高める努力を行った。また、各学科とも円滑な学外実習を実施するために客観的臨床能力試験(OSCE)を導入して事前教育の向上を図り、実習中も担当教員による実習支援体制を強化し、実習不適合者の減少に努めた。
- ③「チーム医療演習」を3学科協同で実施し、外部講師を招聘して症例検討および報告を問題基盤型学習(PBL)方式で行う体制を整備した。
- ④アクティブラーニングを推進した。

2. 学生数確保策

- ①各学科の入学人数はPT学科95名(80)、OT学科60名(60)、ST学科41名(40)と学部として目標確保数を下回った。
()内は募集人員。各学科で入学人数確保策を作成し、次年度の学生募集に反映させる予定である。

3. 国家試験および就職に関する対策

- ①国家試験対策委員会を年間5回開催し、情報交換を密にした。各学科内での指導体制を強化し、PT学科94.5%(89.1%)、OT学科92.7%(85.5%)、ST学科90.9%(84.9%)と3学科とも全国平均を上回ったのみならず、全国4年制大学の新卒合格率を超える成果を得た。特にPT学科は埼玉県内私立PT養成校5校の中で合格率トップを獲得した。()内は新卒全国平均。また、就職率は各学科とも100%であった。

4. 研究について

- ①文部科学省私立大学戦略的基盤形成事業や基盤研究(C)等外部資金を獲得した。
- ②特別研究費による論文発表や海外学会での演題発表を行った。

5. 社会貢献について

- ①目白大学耳科学研究所における耳鼻咽喉科診療、言語聴覚療法の実施により地域医療に貢献した。
- ②地域の障害者スポーツ事業に参加した。
- ③障害児への巡回相談事業を実施した。
- ④埼玉県商工会議所との共同研究において産学連携事業を実施した。

(2) 今後の課題

- ①医療系学部における教養教育の在り方を、大学全体の教養教育との整合性を取りながら検討すること。
- ②受験生の増加策と学生数確保策
- ③国家試験合格率のさらなる向上
- ④科研費等外部資金の獲得、特別研究費の獲得
- ⑤地域貢献へのさらなる努力⑥退学者防止策の策定⑦ハラスメント防止策

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	理学療法学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①再試験回数や欠席が多い学生情報を学科内で共有し、学科教員全体で改善指導に取り組んだ。</p> <p>②ペーパー・ペーシェントを活用し、実習活動向上を目標とした授業を展開した。</p> <p>③前年度から引き続き、基礎ゼミにおいてレポートの書き方を徹底的に指導し、学生のレポート作成能力の改善させた。</p> <p>④知識・技術定着のために講義や実技科目において頻回な小テストを実施し、学習習慣の定着を図った。</p> <p>⑤一部の授業でPBL方式を導入し、学生の学習態度面に関する成果を得た。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①平成28年度から予算の関係上、篠原ゼミを実施しないため、代替え施策を検討する。</p> <p>②ドロップアウトする学生を検討し、中退の減少を図る。</p> <p>③引き続き、国家試験合格率の高いレベルでの維持を図る。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①理学療法学科の臨床実習前アクティブ・ラーニングに関して、論文としてまとめた。</p> <p>②教員自身が関わっている介護予防事業に関してまとめ発表した。</p> <p>③めまいに関する研究を目白大学クリニックを共同で実施できないか検討を加えた。</p> <p>④学会の常任理事などの役職につき、学術活動に貢献した。</p> <p>⑤残念ながら採択には至らなかったものの、多くの教員が科研費等に応募した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①科研費などの外部競争的資金の獲得。</p> <p>②個々の教員だけでなく、チームとしての研究活動の推進。</p> <p>③研究時間の確保。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①臨床実習前のOSCEなど実技指導を多く実施した。</p> <p>②国家試験対策を積極的に実施し、県内私立PT養成校5校の中で国試合格率トップを獲得した。</p> <p>③各授業における小テストの導入など前年度よりもさらにアクティブラーニングを推進した。</p> <p>④各教員が独自のコネクションを活用して就職指導を実施している。</p> <p>⑤学生および保護者との面談を多く実施した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①副担任制が十分に機能していないと考えられるので、その対策。</p> <p>②学生の学習指導に関する保護者との連携。</p> <p>③引き続き、高い国家試験合格率維持するための施策。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①理学療法士協会などの専門職団体の活動に複数の教員が活躍した。</p> <p>②地域の知的障がい児スポーツ事業への参加した。</p> <p>③障害児への巡回相談事業を実施した。</p> <p>④埼玉県商工会議所との共同研究において産学連携事業を実施した。</p> <p>⑤複数の市町村における介護予防事業に参加した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①さいたま市や岩槻区などの地元自治体との連携事業を模索したい。</p> <p>②臨床実習実施施設との共同事業の検討。</p> <p>③理学療法士として他に何か社会的貢献ができないかさらに検討する。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学科内キャリア教育推進プロジェクトを立ち上げて検討を加えた。</p> <p>②学科内入学前教育推進プロジェクトを立ち上げて検討を加えた。</p> <p>③学科内オープンキャンパス対策向上プロジェクトを立ち上げて検討を加えた。</p> <p>④1年次生には、副担任制を導入している。</p> <p>⑤臨床実習時には、担任・ゼミ担当・実習地担当が多面的に学生をサポートする体制を整えている。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学科内プロジェクト・チームで検討を加えた施策の実行。</p> <p>②副担任制は十分には機能していると考えられないので、その対策。</p> <p>③学科内研究グループの構築。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①日本空手道連盟ナショナルチーム強化スタッフとして教員が係った。</p> <p>②ラグビーのクラブチーム・トレーナーとして選手に対して指導を行った。</p> <p>③3年次生保護者会を開催し、保護者と大学との連携を図った。</p> <p>④本学科卒業生を招聘し、在学生へのセミナーを実施した。</p> <p>⑤3年次OSCEの際に指導者として本学科卒業生を招聘し、在学生と卒業生との連携を促した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①良質で近距離の実習地のさらなる獲得。</p> <p>②本学科独自の同窓会組織である目白理学療法士会との共同事業が昨年度は実施できなかったため、今年は開催したい。</p> <p>③研究面においても他学科との共同研究等を進めていく。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	作業療法学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	(1) 特筆すべき事項 ①アクティブラーニングの推進 ②臨床実習へのクリニカル・クラークシップの導入推進 ③基礎学年および専門学年教育教員の専門化 (2) 今後の課題 ①卒業研究履修者(50%前後)の維持、増加 ②発達障害を持つ学生の支援・指導法 ③休学、退学者の低減および指導			
研究	(1) 特筆すべき事項 ①日本で行われた国際学会での発表 ②文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成22年度～平成26年度)や基盤研究(C)「精神保健従事者の態度変容を生む人材育成のあり方～リカバリーを促すアプローチへ～」の研究等外部資金の獲得 (2) 今後の課題 ○引き続き、外部資金での研究の拡大			
学生指導	(1) 特筆すべき事項 ①国家試験合格率90%以上の維持 ②就職率100%の維持 (2) 今後の課題 ①発達障害を持つ学生の支援・指導法 ②休学、退学者の低減および指導			
社会貢献	(1) 特筆すべき事項 ・学会および地方公共団体への専門分野での貢献 ・地元の社会福祉協議会への支援 ・地域との交流事業の計画・実施 (2) 今後の課題 ・全体的にまだ個別に行っているため、より組織的に企画・実施できること			
組織マネジメント	(1) 特筆すべき事項 ○基礎学年と専門学年担当を分けることで、それぞれの学年に合った教育を提供できていること (2) 今後の課題 ○担当を分けることによる風通しの悪さを避けること			
その他				

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	言語聴覚学科
---------------------------	----------	--------------	--------

項目	自己評価 ※箇条書きにて記入
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学科の専任科目は学科教員全員での評価会議を行うなど、学科教員が情報を共有しチームとして学生指導を行った。 ②OSCEを3年次の総合評価演習や4年次の臨床実習にいたる前段階として捉え、個々の学生に対応するという流れが定着した。 ③基礎ゼミや言語聴覚障害学演習など1年次の学習についてはグループ指導や語彙・読解力検定への取り組みなど、自発的な学習習慣を促す指導を徹底した。 ④3年次秋にチーム医療演習を理学療法学科、作業療法学科と共同で実施した。 ⑤国家試験対策では能力別グループ指導、個別指導、また効果判定に有効な模擬試験の作成などにより、安定した合格率を達成した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①入学者の学力差の解消をはかる目的で、入学前研修に始まる初年次教育の充実を図る。 ②早期からの国家試験対策を継続し、安定した合格率の達成に努力する。 ③臨床実習に向けた臨床実習特論について具体的内容を検討する。 ④保健医療学部合同のチーム医療演習については内容の検討、コマの配分など、継続して検討する。
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①接遇教育について、臨床実習直前を想定した教育内容について検討を継続した。 ②学生の会話能力の向上をテーマとした特別研究について論文発表や学内FDの研修会における発表を行った。 ③特別研究費や科研費など競争的研究資金の導入に努めた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国家試験対策をテーマとしたデータ解析をするめる。 ②個別の研究に向かう意欲を損なわないよう、競争的研究資金の獲得を奨励する。
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①担任を中心とした学習面などに問題のある学生への個別指導を継続した。 ②臨床実習において実習地の指導者から提起された問題点について解消に努め、学生の支援を行った。 ③国家試験については詳細な分析を行い、その結果を個別指導に活用した。 ④学生の個別の問題については早期から本人、保護者を含めた三者面談の実施を通し、保護者の理解を促した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学力の格差だけではなく多様化する学生の問題を早期に抽出し対応するための効果的な方法を今後も検討する。 ②臨床実習で必要とされる対象者とのコミュニケーションの取り方などについても学習する体制作りを行う。 ③安定した高い国家試験の合格率の維持に努める。
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①目白大学耳科学研究所クリニックにおける耳鼻咽喉科診療、言語聴覚療法などにより地域への医療提供を継続した。 ②近隣の特養や介護老人保健施設など地域の諸施設と交流を持った。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①特養や介護老人保健施設との連携について、定期的、かつ日常的な連携を行う具体的な方法について施設側との話し合いを継続する。 ②耳科学研究所クリニックにおける言語聴覚療法の対象者は小児に偏る傾向が依然としてあり、高齢者の対象者獲得の方法について検討する。
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①開設から9年を経て、国家試験対策などをはじめとする学生指導の体制が整いつつある。 ②初年次など全教員が関わる科目が他の教員の優れた点を自らの授業にも反映する機会として活用されている。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①良好な関係を保つことができる外部臨床実習施設の定着に向けた研修などの取り組みも行う。 ②言語聴覚士という職種の広報と学科の特色のアピールなどを通して入学志願者の増加を図る。 ③さまざまな業務に迅速に対応できる助教の教育を実施する。
その他	

(1) 特筆すべき事項

《教育》

- ①新旧カリキュラムの並存に留意しつつ、滞りなく実施できた。
- ②医療が在宅医療促進に大きく舵をきったことに伴い、看護も臨床看護から在宅看護に移行しなければならない。そのためにはカリキュラムも在宅看護を中心に据えた大幅な改革を要するため、カリキュラム検討委員会を発足させ、検討に入った。

《研究》

- ①各教員の研究促進と研究費の積極的獲得に努力した。
- ②主たる実習施設や埼玉県看護協会への教員派遣は、受講生の学会発表等でその成果を示すことができた。

《学生指導》

- ①看護師国家試験合格率95%と全国平均を大きく上回るものの、本学としては例年に比して低い結果となってしまった。保健師国家試験合格率は100%であった。
- ②就職率は100%であった。
- ③近年の傾向として、志望動機が曖昧なまま入学する学生も少なくないため、担任、ゼミ担当教員ともに学生の個別事情の把握に努め、きめ細かな指導に当たっている。

《社会貢献》

- ①さいたま市、川口市等との連携による研修会等の実施、埼玉県看護協会との共同事業の実施、各施設への講師派遣等、例年とほぼ同様の内容にとどまった。

《組織マネジメント》

- 教育推進室への事務職員配置により、各教員の事務量の削減を図ることができた。

《その他》

- ①看護学部看護学科と台湾中山醫學大學護理學系とのあいだで昨年度締結した学生間交流協定に基づき、6月に4名を1ヶ月間受け入れ、3月に3名を2週間派遣し初めての学生間交流を実施した。
- ②27年度に看護学部開設10周年記念式典を催すべく、実施委員会を立ち上げた。

(2) 今後の課題

- ①全学教養教育の再構築をにらみつつ、医療の変革に即したカリキュラム構築を行うため、カリキュラム委員を中心に学部全教員で改正に取り組む。
- ②国家試験合格率の上昇を目指して、個々の学生に応じたきめ細かい指導を行う。
- ③台湾中山醫學大學護理學系との学生間交流の実際について見直して課題を探り、課題を修正しつつ次年度の実施につなげる。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	看護学部 看護学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正によって構築した新カリキュラムについて、カリキュラム検討委員会による4年目の検証と3年生と4年生に開講する重複科目の調整を行った。</p> <p>②カリキュラム検討委員会において、新旧カリキュラムの重複部分の調整および進度に係る混乱が無いよう教育体制について十分な調整を行った。</p> <p>③基礎ゼミを初年時教育に位置づけ、専任の科目担当者を配置し、成果を次年度にも反映できるようにした。</p> <p>④埼玉県通達による保健師教育実習受け入れ数制限(入学定員の25%)を受け、保健師教育課程選択学生の第2回学内募集を行い、25名を決定した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①カリキュラム検討委員会を中心に、現行カリキュラム（特に専門科目演習）の見直しと改善の継続検討を行う。</p> <p>②カリキュラム検討委員会を中心に、現行カリキュラムの評価と改正・改善のための検討を継続強化する。</p> <p>③文部科学省「看護系大学等における実習施設の確保について」の連絡を受けて、実習施設の維持確保に取り組む。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①教員各自の研究促進と研究費の積極的獲得（科学研究費、特別研究費）に努力した。</p> <p>②主たる実習施設（3病院）及び埼玉県看護協会等に「研究の促進と質の向上」を目的として積極的に教員を派遣し、学会発表の形でその成果を得た。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①教員各自の研究促進と学外研究費の積極的獲得の継続と、海外への研究成果の発表を促進する。</p> <p>②主たる実習施設や埼玉県看護協会への研究指導の派遣継続および共同研究を推進し、県内の看護の質の向上を図る。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>○看護師国家試験合格率95%、保健師国家試験合格率100%、就職率100%であった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①看護師国家試験不合格者へのフォロー及び国家試験合格率の維持・向上。</p> <p>②多様な背景を持つ学生のために、学習及び生活への多層にわたる指導体制の継続強化とクラス担任制システムの検討。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①教員各自で行っている社会事業への積極的参加の推進。</p> <p>②地域に開かれた大学としての学部の役割検討と実践。 （岩槻住民を巻き込んだ認知症サポーター講座の継続開催と岩槻包括支援センターとの共催で「認知症カフェ」の企画運営への参画）</p> <p>③埼玉県との共催による公開講座の開催。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①組織役割について、膨大となる事務的内容を整理し、スリム化を図った。</p> <p>②教育推進室への職員配置により、教育資料の入力・印刷量が軽減でき、学生に向き合う教員の時間確保ができた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学部組織の編成及び役割分担の見直しと確立のための検討の継続。</p> <p>②実習に関する事務的作業について、実習支援室および教育推進室との連携による作業効率の検討。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①目白大学看護学部看護学科と中山医学大学看護学系間で初の学生間交流を実践した。中山医学大学より4名を受け入れ、目白大学より院生1名を含む3名の派遣を行った。</p> <p>②高校への出張事業を積極的に行い、学生確保に努力した。</p> <p>③卒業生の帰属意識の向上と相互の切磋琢磨のために同窓会支部（槻の会）への支援を行った。</p> <p>④看護学部開学10周年記念式典のための準備委員会を発足させた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①目白大学看護学部看護学科と中山医学大学看護学系間の学生間交流についての課題を検討し、継続を図る。</p> <p>②看護学部開学10周年記念式典及び祝賀会の実施。</p> <p>③同窓会支部への支援の継続と卒業生の動向調査の実施。</p>			

別科

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	別科用評価シート	組織名称 (評価単位名称)	留学生別科日本語専修課程(JALP)
項目			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①春学期71名、秋学期83名、計154名に日本語教育を実施した。総合日本語コース（主に大学進学者対象）142名、大学院進学コース12名である。 ②短期日本語・日本文化研修を2回実施した。（夏期22名、冬期15名）日本語学習と学外で日本文化を体験する研修を行い、満足度の高い評価を得た。 ③海外提携校の交換留学生に対する日本語学習支援を行った。N2レベル以下はJALPでの日本語学習を義務化、その他留学生にはNIS（交換生のためのクラス）を設け、アカデミックジャパニーズと日本語能力試験対策（N1）を指導、日本語力向上の成果が得られた。 ④本学の日本人学生とのチュートリアルセッションを週1回設けた。参加者は春・秋学期計123名（JALP生・交換生）、日本人115名である。学生間の国際交流、日本語のコミュニケーション能力向上に役立った。 ⑤日本語・日本語教育学科とJALPが連携し、日本人学生がJALPでの授業見学や実習を行い、その活動記録の報告書を作成した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○JALPと日本語・日本語教育学科とが連携を深めることは相互のメリットになる。双方のカリキュラムや指導内容・体制等の構築を進める必要がある。 		
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本語教育学会で留学生のアカデミックジャパニーズを向上させる教育実践の発表を行った。 ②上記発表にデータを追加し、「アカデミックジャパニーズ・ジャーナル」に投稿した。 ③「留学生の語学留学に対する意識についてー日本語日本文化研修から見えたことー」を「目白大学高等教育研究第21号」に投稿した。 ④交換留学生の学習支援についてJALP日本語教育研究会で発表した。 ⑤『みんなの日本語中級Ⅱ』の指導書（共著）を出版した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学期、年2回定期的にJALP日本語研究会を実施し、現場の問題解決に寄与させること。 		
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①進路指導の担当者を決め、早期の説明会・相談会を実施した。JALP修了者の進路実績は、大学院9名、大学11名、専門学校7名、就職5名、帰国6名、その他11名となっている。 ②日本語学習だけでなく、日本文化を理解できる活動を行事や「日本事情」の科目の中で積極的に実施、学生からも好評であった。（歌舞伎鑑賞・茶道・生花・書道・和菓子作り・浴衣体験・相撲鑑賞・長唄鑑賞・日光・箱根研修旅行等） 		
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域国際交流機関や団体が主催する日本語ボランティア養成講座の講師を務め、在住外国人に対する日本語学習支援活動を行った。 ②新宿区立落合第三小学校の小学生（全校380人）を訪問し、JALP学生33名と国際交流を行った。5・6年生が日本の子どもの遊びや日本文化（書道・琴・落語・日本舞踊）等を教えてくれた。留学生は自分の国をパワーポイントを使って紹介した。双方、大変喜ばれたプログラムであった。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①落合第三小学校と交流活動を継続すること。地元との国際交流を推進すること。 ②ホームビジットやホームステイ等留学生が日本人の生活に触れる機会や受入れ先を開拓すること。 		
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①海外提携校である中国の天津商業大学宝徳学院の院長他4名が来校、2011年度より開始した3+1制度（本国で3年、本学で1年勉強）の実施状況と留学成果の報告及び意見交換をした。 ②タイのランシット大学の学長補佐他30名が来校、現地の日本語学科学生の本学での日本語学習機会の可能性について討議した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ①海外提携校との連携推進、新規開拓をし、現地校のニーズやレディネスに合ったコースやカリキュラムを提供すること。 ②外国語学部の他学科、日本語・日本語・教育学科との連携推進をすること。 ③JALP卒業後の進学先として本学の学部や大学院が門戸を開いてくれること。 		
その他			

附属施設等

自己評価 ※簡条書きにて記入

(1) 特筆すべき事項

①講座（新宿キャンパス）

- 他の公開講座では稀な言語としてフィンランド語・スウェーデン語・デンマーク語・タイ語・台湾語・ポルトガル語を展開。
- 新宿キャンパスでは託児室を完備。

②講座（岩槻キャンパス）

- 目白大学公開講座：さいたま市との共催で行う医療系公開講座で毎回定員を大幅に超える申し込みがある。（抽選）平成26年度担当していただいたのは、保健医療学部の教員で『健康を支えるリハビリテーションの知識』と題して実施。定員60名。

③物的資源活用

- 教育研究に支障をきたさない範囲で、大学施設を学外諸団体、および企業等に有料で貸し出している。

【所感】

- ①講座部門では、本学で売りにしていたマイナー言語でもポルトガル語やスウェーデン語のように長期担当していただいた講師が高齢化等の理由で、本国に帰国するため無くなる言語講座も出てきている。同等の質の高さを求めると、なかなか人材が見つからないのもマイナー言語ならではの事情であり、希望する受講生自体も減少傾向にあるため、講座を企画できても開講する人数が集まらないという事態もあった。今年状況を見て、講座のあり方も検討する必要があると思う。

- ②さいたま市との共催で行っている岩槻キャンパスでの医療系公開講座は、最初から社会貢献事業の一環として、地域の方を対象にした無料講座であるため、今後もさいたま市の予算が減少する等の理由により、本学の持ち出し部分が大きくなるとしても定員を超える応募があるので、社会貢献として続けていく方向で考えたい。

- ③施設貸しに関しては、史上最高益となった昨年度よりも約600万円減収となった結果だが、エクステンションセンター運営委員会で決めた方針通り、学内の教育活動のために貸し出しを抑えた結果である。

(2) 今後の課題

- ①講座部門では、毎年受講生が減少傾向にある。長年継続して受講していただいた方が、高齢のため減っていく一方で、従来多かった40代の主婦層が新規入会して来ない状況が拍車をかけた形となった。受講生が減ってはいるが、数年前からエクステンションセンターの使用できる教室も減っているので、講座数を増やせるわけでもない。基本的には赤字になる講座は開講しないので、収益は出る形ではある。比較的教室が空いている平日午前中に集客できる講座の企画が必要だと思う。

- ②施設貸し部門でも今後は、外部団体への貸し出し回数を減らして学内の教育活動の妨げになる日を少なくする必要はあると思う。外部団体の試験でも少子化の影響か、受験生が減る傾向にあり、予定していた施設をキャンセルする団体も出てきた。実際に試験そのものをキャンセルしてくる団体もあり、収益の見込みが立てにくくなってきたと言える。今後はできるだけ効率のよい団体への貸し出しを選んで実施していくべきである。

自己評価 ※箇条書きにて記入

(1) 特筆すべき事項

1. センター（新宿）および分室の相談体制・相談業務の拡充

①平成26年度の成果（実績報告）

センター（新宿）では、新規申込件数は190件（前年度比127%/平成25年度150件）、そしてのべ面接回数は3517件（前年度比108%/平成25年度3270件）となり、増加傾向は続いている。こうした増加の最大の要因は、近隣の医療機関・教育機関・福祉機関から紹介を受けて来談するケースが増加したためだと考えられる。このことは開室14年目を迎えた本センターが、地域に根差した臨床実践の場としてさらに認められていることの証左と言えるだろう。分室では、平成25年度より非常勤相談員の勤務体制の効率化など相談体制の整備を進めた。このことを反映して、新宿同様、新規申込件数は97件（前年度比126%/平成25年度77件）、のべ面接回数は818件（前年度比111%/平成25年度737件）となり、増加傾向は続いている。埼玉病院事業として「新規採用看護師等教育事業」「医師、看護師、職員等のメンタルヘルスケア事業」および「研修事業」の3つを引き続き実施している。平成26年度は64名の新規採用看護師が心理カウンセリング面接を体験した。また、9名の病院職員が分室を利用し、計37回の面接を行った。また、平成25年度に初めて実施した目白大学耳科学研究所クリニックとの学内連携では、今年度も合同カンファレンスの実施という形で継続することができた（平成26年7月31日・平成27年3月16日）。カンファレンスでは、医学的見地と心理的見地の両面から多角的な検討がなされ、参加者はより深い症例理解の機会を得ることができた。

②平成26年度の成果に対する評価

センター（新宿）、分室ともに来談件数は開室以来の高い水準を維持している。開始より6年を経たEAP事業はもとより、一般外来の増加が著しい。それに伴い心理カウンセリングセンターの収益も引き続き増加となった（前年度比108%）。

2. 臨床心理学的知識および援助技術の提供による地域貢献

①平成26年度の成果（実績報告）

- セミナー形式公開講座（新宿）平成26年8月2日に4講座の開催 参加者21名
- 公開講座（分室）平成26年12月6日「演題：アディクションの理解と治療－認知行動療法による包括的治療モデル－」講師：原田隆之先生（本学心理カウンセリング学科准教授） 参加者28名
- 公開講座（新宿）平成26年1月31日「心理カウンセリングと「共鳴」－狂言の表現に学ぶ－」講師：奥津健太郎先生（能楽和泉流狂言方） 参加者16名

②平成26年度の成果に対する評価

前年度に引き続き、セミナー形式講座、公開講座ともに好評であった。

(2) 今後の課題

1. センター（新宿）の相談体制の整備

開設以来のべ面接回数は増加傾向が続いており、開室当初に比べ、本センターの規模も、そこに求められる役割も、より大きなものに変化している。特にここ2、3年は顕著であった。このため、現在の相談員体制では地域の要望に対して十分とは言えず、時間的かつ人力的な体制の強化を図る必要があると考えられる。また非常勤相談員のいわゆる「雇止め問題」の顕在化もとりわけ大きな課題である。これらの課題を学内関係部署の協力を得ながら解決し、地域住民が安心して継続的に利用できる相談体制の整備が必要である。

2. 分室の相談体制の整備

独立行政法人国立病院機構埼玉病院のメンタルヘルス事業の定着もあり、分室に対する地域の要望が多くなってきている。ケース数増加に見る地域からの要望に対して、十分に対応できているとは言えず、新宿同様、時間的かつ人力的な体制の強化を図らねばならない。

3. 地域貢献活動の拡充

- ①平成25年度より本格化し、平成26年度も継続している目白大学耳科学研究所クリニックとの連携について、さらなる充実をめざしたい。
- ②①については、地域貢献のみならず、学内連携による近接領域との合同研究としての計画も進めていきたい。
- ③セミナー形式講座はセンター所員持ち回りで多様な講座を用意してさらなる充実をめざす。
- ④新宿および分室にて行う公開講座はこれまでの参加者からのフィードバックを参考に適切なものを企画する。

4. 修了生等の臨床心理士に対するフォローアップ研修制度の確立

かねてより、修了生のフォローを中心とした、研修体制の枠組みについて現在検討中である。これまでの修了生で臨床心理士の資格を持っているOG/OBの組織化をすることが必要であり、課題である。心理学研究科など関係部署との十分な検討の上、制度を開始する必要がある。

自己評価 ※箇条書きにて記入

(1) 特筆すべき事項

①「プロジェクト研究」の推進

- 以下の2つのテーマについて研究を推進し、調査の実施・まとめ等を行った。
 - ・「大学教員の基本的な授業技術」：定期的にグループ会議を実施しながらアクティブ・ラーニングの定着状況の調査分析を進めた。
 - ・「ICTを活用した新しい授業方法の開発」：定期的にグループ会議を実施しながらE-Learningシステムの活用促進やドリル問題の充実等を図りながら、活用状況について調査を行った。

②所員会議の実施

- 所員会議を月1回ペースで開催した。岩槻キャンパスとはWeb会議でつないで実施した。
- 研究所事業・業務の審議決裁及び、グループ会議の設定、公開講座、紀要の発行に関する査読なども実施した。
- 会議資料や議事録などについては電子化しWeb上で共有を行った。

③機器貸出の実施

- 全学の教員を対象に教育研究用途での機器備品貸出を行った。
 - ・iPad、タブレットPCや、プロジェクタ、カメラ、ケーブルなど多岐に渡る内容で、50件以上の貸出実績があった。
 - ・iPadの貸出ではアクティブ・ラーニング等での活用も認められ、教員の授業方法の向上にも良い影響をもたらした。

④機関紙等の発行

- 『目白大学高等教育研究』は、査読の仕組みの整備などにより良い論文が集まるようになってきている。
- 『人と教育』『目白大学高等教育研究』ともに、学外からも問い合わせがあり、適宜学外向けに発送を行った。

⑤教育方法の改善の支援

- 学士力向上ドリルの活用した入学前フォローアップセミナーが普及し始めてきた。

⑥改組の決定

- 平成27年度から拡充の方向性としてFD及びIR部門の設置が決まり、実行に向けて検討を進めた。

(2) 今後の課題

- 事業が広範にわたっており、各事業を効率化することが課題である。また他の部署との連携によって推進すべき課題（特にe-learning関係）があるため、連携を図ることで更に効果的な事業展開を目指すことも今後重要である。
- 事業の周知が徹底しておらず、広報も課題である。
- 兼任研究員が多いため、より効率的な「プロジェクト研究」の推進方法などを検討していくことが必要である。
- 改組が実施された以後の事業展開について、今後詳細に詰め実行していくことが必要である。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検・評価	研究所用評価シート	組織名称 (評価单位名称)	経営研究所
---------------------------	-----------	------------------	-------

自己評価 ※箇条書きにて記入

- (1) 特筆すべき事項
 ○今年度は特にありませんが、目白大学経営学部における経営教育のあり方について研究面から経営学部の方向性を模索し、経営学部における経営教育の特徴を発信できる経営研究所ライブラリーを企画しています。
- (2) 今後の課題
 ①大学全体に「開かれた経営研究所」としての構想を実現すること
 ②目白大学経営学部・大学院経営学研究科における特徴ある経営教育及び研究成果の発信に資すること
 ③経営研究所所員による研究成果実現を支援すること
 ④大学院経営学研究科との協賛による特徴豊かかつ有意義な公開講座を随時開講すること
 ⑤経営研究所ライブラリーの継続的刊行により研究活動を活性化し、特徴ある経営の教育・研究内容を発表する機会を提供すること

項目	
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①本年度入学者は全員が急性期病院であったため、昨年回復期病院対象者に入学前に推奨したICU研修は行わなかった。</p> <p>②昨年度研修生のうち実習単位未取得の者1名（アキレス腱断裂により実習中止）について、授業には演習から参加し看護過程の展開がスムーズに行えるよう個別指導も行った。演習から他研修生と共に学習することで相互に良いコミュニケーション関係が築かれ、実習を円滑に進めることができ 単位の取得に繋がったといえる。</p> <p>③第3回実習指導者会議を実習施設（9施設）の指導者と入試・教員会委員、専任教員によって開催し、実習目標達成に向けた指導者の考え方と指導方法について意見交換を行った。教員からは個々の実践能力の格差や不得手への対処、認定に求められる看護技術の評価について、技術項目の明確化と基準設定について検討する予定であることを伝えた。</p> <p>④実習指導者層の充実：本年度より指導者全員が当該分野および集中ケア認定看護師となった。これは各施設の認定看護師数の増加や適正配置を意味し、認定に求められる役割や能力を習得する実習の場で指導者の直接的な役割モデルを通して学ぶものが大きいと考えている。</p> <p>⑤看護部長懇談会（1/30, ホテルメトロポリタン池袋）を開催した。本学看護学教育における認定教育課程の位置づけや過去4年間の研修生の概要と実習等について報告した。施設側からは、実習の受け入れは現場の看護の質向上に繋がり、スタッフ教育に大いに貢献してもらっているという意見が多かった。</p> <p>⑥がん性疼痛看護修了生を対象に「フォローアップ研修」を開催、講演と活動報告、「自施設でリソース（resource資源）として実践していくための現状と課題」では活発な討論が行われた。研修後に「交流会」を持ち互いに親睦を深め合った。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①平成28年度から実施予定の新カリキュラムについて、新旧対照を詳細に行い講師選定、授業内容の検討を行う必要があり、講師に対しては年度内に「カリキュラム説明会」を計画する。</p> <p>②がん性疼痛看護修了生に対するフォローアップ体制を整える。（研修担当者を決め、年1回研修を実施する）</p>
研究	<p>(2) 今後の課題</p> <p>○当該分野認定看護師は、脳卒中ガイドラインで強く推奨されているチームによる早期リハビリテーションにおいても未だ診療報酬算定要件にはなっていない。平成27年度「脳卒中法案」成立に期待が高まる一方で、分野の受け皿である看護系学会（日本脳神経看護研究学会）において、「背面開放座位」を技術申請する方針を打ち出している。目下、日本看護技術学会と協働申請を進めており、平成27年度から認定看護師を対象に技術統一を図り、研究方法の指導と実践データを蓄積する。当センターではこの内容に沿って6月に研修プログラム（大久保暢子講師）を予定している。</p>
学生指導	<p>(2) 今後の課題</p> <p>○昨年から引き続き、研修生の学習レディネスの相違による学習到達度の違いが課題であった。入学時、実習前、実習後に個別面談を実施した結果、相談内容が多かったのが学習方法についてであり、ついで研修後自施設での活動上の不安であった。これについて、専任教員が自身の経験を踏まえて指導したり、交流会の機会に意見交換することで軽減された。また、本年度から「事例発表会」プログラムに修了生による「実践報告」を入れたことは、認定資格取得前や取得後の活動の実際を知る機会となり研修生に大いに役立つ結果となった。</p>
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①脳卒中予防のための第2回市民公開セミナー「ストップ！脳卒中-すぐ受診 動悸は危険のふれ太鼓-」を開催した。（12/13, センター2階）本課程必須科目の教育の一環として、また和光市民に対する地域貢献や研修生のリーダーシップ育成もねらいとしているが、研修生主体の運営には昨年度の開催経験が十分に活かされた結果となり、参加者アンケートの満足度も高く次回開催要望が多く寄せられた。協力参加の消防署からは、寸劇「あなたを救う！その119番」の出演者を署内で公募した、セミナー聴講が救命士の研修プログラムに位置づいたと報告を受けた。これはセミナー開催の意義と内容が消防署においても研修に価する評価を受けたものとして理解した。</p> <p>②第41回日本脳神経看護研究学会をセンター教員が主催し（日本脳神経外科学会学術総会併催:10/10, グランドプリンスホテル高輪）、3期生が「劇による初期対応のBest Practice」の演題で市民公開セミナー報告を行った。大会運営には修了生のほぼ全員がボランティアとして協力してくれた結果、大会は成功裏に閉会した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○市民公開セミナーではより多くの市民参加が得られるよう広報の範囲や方法を工夫することが課題である。</p>
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成26年度研修プログラムを認定教育課程が開講していない時期（4月～8月）に計画し、研修プログラムとして「看護研究」、「看護倫理」、「リーダーシップ」の3つとした。初回は認定看護を対象としたため、「看護研究」は参加者が少なく事前中止とした。他2つも参加者は少なかったが参加者の満足度は大変高く（アンケート）、次回開催に向けて対象者と開催時期について検討の余地が残された。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>○関根センター長退任に伴い、年度末にセンター運営の引継ぎを行った。同時期に事務職員の退職も重なったためセンター事業が円滑に遂行されるよう一層の努力が必要である。従来の業務分担を見直し、現在月1回の事務、教員間会議（MUSC会議）に加えて、当初は事務長とのミーティングを週1回は実施する。</p>
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成25年度日本看護協会認定審査に不合格となった修了生2名については、所属施設看護部長にフォロー計画を伝え認定審査模擬試験を受験させ、結果合格した。平成26年度不合格者2名についても同様に行い、平成27年度受験予定である。</p> <p>②修了生による「同窓会」が発足した。有志により同窓会設立準備委員会を立ち上げ会則案を作成、第1回同窓会を開催した。（年1回の同窓会総会は市民公開セミナーの日に開催することが決定した）</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①研修生確保について：目白大学卒業生に対して、同窓会等でパンフレットを置かせてもらおう。認定の同窓会を通して各職場で受講への働きかけを行ってもらおう。看護学雑誌（例：BRAIN NURSING）に教育機関の宣伝をしてもらおう。</p> <p>②目白大学HPを活用し宣伝効果が上がるよう内容の充実を図る。</p>